

Contents

- 02 首長は語る
誰もが健やかに
生きがいを実感できるすくもづくり
沖本年男 宿毛市長
- 07 いちおしスポット 宿毛市
- 09 第26回高知県国保地域医療学会
- 13 おらんくの保健事業 安田町
「その人らしい生活を実現！」
住民とともに地域を支える仕組みづくり
- 17 なでしこの会
「黒い靴 高知県保健師の記録 ―そこに暮らす住民とともに―」発刊
- 18 地域のたから ちいキッズ！ 土佐市
- 21 コーヒーブレイク 「I ♥ めん類」南国市 / 「母へ」大月町
- 23 黒い靴 No.248 高知市
もっとまちを好きになる ―住民から学ぶ保健活動―
- 25 ヘルシーごはん 食べてみいや！味でみいや!!
「麻婆豆腐」「豆腐のイタリアン フレッシュトマトソース」
- 27 元気散策！～このまちからの笑顔だより～ 香美市
- 30 こちら介護保険課
依然、高い伸び率の地域密着型サービス ―増加傾向を示す介護給付費―
- 31 国保連合会2月通常総会
- 33 こくほ随想 地域包括ケアの推進と高齢者医療・国保制度改革
- 35 連合会の動き
- 37 就任のごあいさつ
- 38 国保連合会事務局組織図
- 39 国保連合会事務分担
- 41 国保連合会各室課事業年間予定表
- 43 連合会日誌
- 44 編集後記

TOSA国保だよりは
本会ホームページからも
ご覧いただけます。
<http://www.kochi-kokuhoren.or.jp>

TOSA国保だより 検索



宿毛市長

沖本年男 (64歳)

首長は語る

No.63

誰もが健やかに
生きがいを
実感できる
すくもづくり

輝く海に浮かぶ
緑の島々。
恵まれた自然と温かな人情。
政治・産業・文化、
幅広い分野で
多くの偉人を輩出してきた
四国西南地域の中核都市。
宿毛市を訪ね、
これからのまちづくりについて
沖本市長に伺いました。



首長は語る

No.63 宿毛市長 沖本 年男

専門分野ごとに保健師を配置。実践的取り組みを展開

国保連合会吉本事業課長（以下、吉本）
まず、宿毛市の施設整備の状況や保健師などの人数、活動状況などについてお聞かせください。

沖本年男宿毛市長（以下、沖本市長）
宿毛市では、総合社会福祉センター内に「地域包括支援センター」を設置し、さまざま

な社会資源の連携体制の整備を行うことから、地域包括ケアシステムの充実を図っています。また、身近でいつでも利用できる居場所づくりとして、総合社会福祉センターと沖の島の弘瀬地区に「あつたかふれあいセンター」を整備しました。25年度には、平田・

山奈地区を対象としたサテライト施設を開設する予定です。



総合社会福祉センター

保健師については、保健介護課の健康指導係に6人、予防係に3人、福祉事務所に1人を配置し、計10人が多岐にわたる市民の健康問題に携わっています。

健康指導係では、地域に入って活動する地区分担制と、母子・成人・精神に区分した業務分担制を導入しています。

予防係では、高齢者を対象に健康相談や訪問などを通じ、介護予防に関する知識の普及啓発や、地域での自主的な介護予防の実践を促すよう、グループの育成支援を実施しています。

一方、福祉事務所では、各種障害に関するサービスの提供や家庭訪問など、個別支援に取り組むとともに、「子ども支援ネットワーク委員会」の中心的メンバーとして、委員会との連携を図りながら、子どもとその家族への支援を実践しています。

電話受診勧奨で個別健診の受診者が5倍増

吉本 特定健診・特定保健指導への取り組みについてお聞かせください。

沖本市長 24年度から特定健診の自己負担の無料化に取り組むとともに、23年度の未受診者に対し、アンケートを実施しました。回答者の45.2%が未受診理由として「定期的に通院、検査していたから」と答え、その結果を基に保健師による電話での健康相談を行いました。個人に合わせた受診勧奨を実施したところ、集団健診の受診者は昨年度か



すくも探健元気ウォークラリー



市民課と保健介護課が連携し、国保ヘルスアップ事業に取り組む

また、対象者には市民課と保健介護課が取り組んでいる国保ヘルスアップ事業での生活習慣改善運動事業にも積極的に参加するよう働き掛けています。その事業の一つとして市民に定着しつつある「すくも探健元気ウォークラリー」は、25年度以降も継続実施していく予定です。

らや増加し、医療機関でいう個別健診は、昨年度の51人から257人と大幅な伸びを示す結果となりました。25年2月末現在、受診率は25.5%と過去最高の伸びとなっています。

一方、特定保健指導ですが、動機付け支援は「幡多健診センター」へ委託し、積極的支援については市が実施してい

地域包括支援センターの機能強化に力を注ぐ



吉本 高齢化対策はいかがでしょうか。

沖本市長 25年3月末現在の人口は2万2368人で、うち65歳以上の高齢者は6863人、高齢化率は30.7%で、約3人に1人が高齢者という状況です。

誰もが参加できる介護予防事業や、市民が自主的に取り組むグループづくりなどを行うことから、高齢者の健康や生活実態を把握し、必要な福祉・介護サービスへつなげていきます。

「はつらつ筋力アップ教室」では、要支援・要介護状態と

なることを防ぐため、3カ月間、週1回の運動教室を実施し、参加した高齢者からは好評を頂いています。

また、沖の島を含む市内12カ所、介護予防に関する健康教育や体操を取り入れた健康相談を実施し、知識の普及と交流の場を提供しています。

25年度は、地域包括ケアシステムの実現に向けて、地域包括支援センターの機能強化を行い、認知症になっても地域で暮らせるよう、家族会の育成や啓発などの取り組みに力を入れていきたいと考えています。

保健師・助産師・管理栄養士による育児相談支援を実施

吉本 少子化対策についてはどのようなことを行っていますか。

沖本市長 10年前の出生数201人に対し、ここ5年間の出生数は、年平均168人で、年々少子化が進んでいます。

少子化対策については、15年度



事業」に取り組ましました。これは、生活習慣病の予防が医療費の抑制につながっていくことを目的としています。

糖尿病予防のための健康教室や料理教室、生活習慣改善



糖尿病健康教室



料理教室



生活習慣改善運動事業

に育児相談や親子の触れ合いと保護者同士の交流の場として「子育て支援センター」を開設しました。保育士2人を配置し、保健師などと連携を図りながら子育て支援に取り組んでいます。

24年度はセンター内で月1回、赤ちゃん広場を実施し、保健師と助産師、管理栄養士の多職種による相談支援を始めました。

また、助産師が新生児訪問をする一方で、より専門的に母親の育児に関するストレスや不安に対応でき、負担を軽減することで、虐待予防にもつながっているものと考えています。

一方、保育料については多子世帯軽減事業の実施、医療費については義務教育終了までの無料化を行い、育児家庭の負担軽減に努めています。

自分に合った住まい が選べる環境づくり

吉本 介護保険の状況はいかがですか。
沖本市長 25年3月末現在、第1号被保険者数は6851人、うち後期高齢者数3902人、高齢化率30・7%、後期高齢化率17・4%となっています。

今後の課題は、団塊の世代が65歳以上になる27年度に高齢化率が進むことが予想されるため、介護保険サービスの充実はもちろん、「介護予防」「地域保健・地域福祉」に重点を置いた環境整備が必要となっています。

本市では、第5期介護保険事業計画に基づき、介護・保健・医療・福祉などの地域連携ネットワークの実現に向けて取り組んでいます。地域包括支援センターの機能を充実させ、地域連携を推進するとともに、自分に合った施設や住まいが選べるよう、特別養護老人ホームや地域密着型特定施設などの整備を進めています。



別養護老人ホームや地域密着型特定施設などの整備を進めています。

22人の母子保健推進員が地域で活躍

吉本 宿毛市における特色ある取り組みについてお聞かせください。

沖本市長 本市には、県内3カ所（南国市・いの町・宿毛市）にしかない母子保健推進員が22人おり、各地域で乳幼児健診への声掛けや健診会場での計測介助などの支援を実施しています。

さらに、食生活改善推進員32人の活動も活発で、5月の「松田川いきいきウオーク」での特産じゃこ入りおにぎりの



配布や各イベントでの「1日350gの野菜摂取」の啓発活動を行っています。また、糖尿病予防の料理教室や3歳児健診でのおやつづくりなど、多岐にわたって「食の大切さ」を推進しています。

2月に開催された新港産直市では、初めての試みとして、災害食メニューの一つ「すいとん」を披露し、市民に試食していただくなど、来る災害に対応するために「食」の取り組みも始めています。

財政運営の都道府県単位化に向け、早急な対応を

吉本 国保における問題点と課題などについてお聞かせください。

沖本市長 本市では24年度、大幅な税率改正を行いました。が、長引く景気の低迷などの影響から、見込みどおりの税収確保が出来ていません。財政調整基金も19年度からの赤字決算による取り崩しが相次ぎ、24年度は全額取り崩してもなお財源不足となること回避けられない状況です。



本市は、県内でも比較的低い医療費ではありますが、もともと財政基盤が脆弱で高齢化率も高く、保険者の経営努



力だけでは、もはや安定した運営は望めない状況です。

今後は国に対し、市町村国保へのさらなる公費投入と都道府県単位化に向けた早急な対応を強く要望していきたいと考えています。

なお、都道府県単位化に向けては、市町村間の格差是正が必要です。目標年度を設定し、県が主体的に調整していくことが重要ではないかと思っています。

再生可能エネルギーを利用した 産業振興に取り組む

吉本 現在、宿毛市で取り組む地域振興事業や市町村PRなどがありましたらお聞かせください。

沖本市長 本市は高知県の西南端に位置し、春はアケボノツツジが咲き誇る「篠山」、夏は四国一早い海開きが行われる「沖の島」、秋から冬にかけては宿毛湾で見られる冬の風物詩「だるま夕日」など、四季を通じて自然を満喫できるまちです。



篠山アケボノツツジ

れ、本市の漁業を支えています。現在では、この豊かな自然の魅力を堪能していただくため、宿毛市観光協会と連携しながら「海」に着目した観光に力を入れています。



また、本市では再生可能エネルギーを利用した「木質ペレット製造」「木質バイオマス発電」の新規事業化を予定しています。原油依存からの脱却をめざし、農林水産業における木質ペレット対応への助成金制度を拡充するなど、今後、再生可能エネルギーを循環させるまちづくりとして、



沖の島（七つ洞）

地域資源を生かした産業振興に取り組んでいます。考えています。

「山登り」で足腰を鍛え、 心身共にリフレッシュ！

吉本 沖本市長ご自身が健康に對して普段から気を付けていることはありますか。

沖本市長 息子の勧めで50歳を過ぎたところから「山登り」を始めました。今では、趣味として自宅近くの山を歩いたり、四国を中心に登山に出掛けたりしています。時間を見つけては体を動かすことを心掛け、足腰を鍛えるようにしています。

多岐にわたる実践的な支援の充実を

吉本 今後、国保連合会に望む事業などありましたらお聞かせください。

沖本市長 国保事業は、度重なる制度改正により業務内容が複雑化し、より専門的になってきました。市町村においては厳しい財政状況の中、効率的な事務処理かつ効果的な保健事業をいかに展開していくのが大きな課題となっています。

10月に予定されている国保データベース（KDB）システムの稼働後は、保健・医療・介護のデータ突合が可能にな

ています。

また、もともとは農業出身ですので、家庭菜園を楽しむことも趣味の一つです。日ごろから土に触れることで心身共にリフレッシュしています。「土を耕し、種をまいて実がなる」。この一連の流れを堪能することは、同じ生命を持つものとして喜びを感じるひとときです。

るとお聞きしています。医療費分析や適正受診、保健事業への有効な活用ができることを大いに期待するとともに、情報提供や多岐にわたる実践的な研修などの充実をお願いしたいと思っています。

国保連合会は、レシピの審査支払いや市町村事務の共同処理など、さまざまな業務を担っていただき保険者にとつて不可欠な存在です。今後とも、市町村と一体となった事業運営に対し、より一層のご支援、ご協力をお願いいたします。



4

宿毛の歴史がよみがえる

宿毛歴史館

宿毛文教センター内にある歴史館では、宿毛の歴史や文化、ゆかりの人物を模型や映像、遺品など、貴重な展示品によって紹介。「歴史展示」「人物展示」「特別展示」のフロアに分けられ、それぞれ特色あふれる展示を行っている。

■開館時間／8:30～17:00

■休館日／毎週月曜日（祝日の場合は翌日）
年末年始（12月29日～1月3日）

■入館料／高校生以上200円・小中学生100円

■お問い合わせ／TEL 0880-63-5496



詳しくは、宿毛市役所商工観光課までお問い合わせください。

● TEL 0880-63-1119

● URL <http://www.city.sukumo.kochi.jp/>

3

出井
甌穴

急流がつくり上げた天然の彫刻



松田川の上流、愛媛県との県境近くの出井溪谷にある甌穴群。渦巻く急流がつくり上げた天然の彫刻で、幅40m・長さ200mにわたる岩床に、大小約200の甌穴が珍しい景観をつくり上げている。（高知県指定天然記念物）

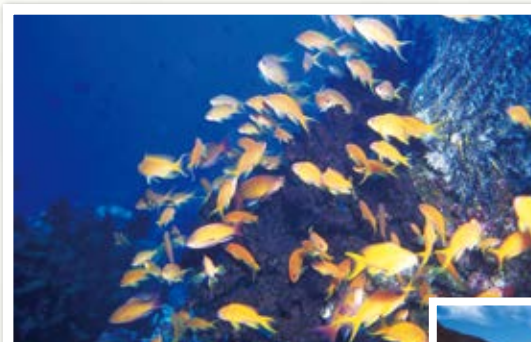


5

田園風景にたたずむ6基の水車

水車街道

土佐くろしお鉄道、東宿毛駅の近くに広がる水車街道。毎年6月には水車の周りに色鮮やかなあじさいが咲き広がり、道行く人々を魅了する。



6

高知県で唯一の有人離島

沖の島

宿毛湾に浮かぶ美しい島。サンゴや熱帯魚が暮らすコバルトブルーの海は、ダイビングスポットとして大人気。磯釣りのポイントとしても有名で、グレなどの大物を狙う釣り人が全国から訪れている。



いちおしスポット

1

宿毛の海を存分に満喫!

咸陽島公園

春は桜の観賞、夏は海水浴、冬はだるま夕日を目見ようと大勢の人でにぎわう憩いの広場。公園内には国民宿舎やビーチスポーツコートなど、家族で楽しめる施設が充実。干潮時には、沖に浮かぶ咸陽島まで歩いて渡ることができる。



宿毛湾の冬の風物詩

幸運のだるま夕日

だるま夕日は、太陽が水平線にかかるとき、光の屈折で数分程度、円形からだるまのように変化する神秘的な自然現象。毎年11月中旬から2月下旬にかけて、天候・水温・気温の条件がそろったとき、年に20回程度見ることができる。（鑑賞スポット）

咸陽島公園・片島港・すくもサニーサイドパーク



2

だるま夕日を望む休憩スポット

すくもサニーサイドパーク

だるま夕日の観賞スポットとして有名な国道321号線沿いにある道の駅。市民の憩いの場、観光客の休憩所として利用されている。パーク内には観光案内所の他、特産品販売コーナーなどが設けられている。

四季の大自然と
歴史の生きるまち
宿毛市

第26回高知県国保地域医療学会

地域医療の輝く未来へ。

これからの

人材育成を考える

国保関係者150人が高知医療センターに参集

平成25年2月23日、高知県国保地域医療推進協議会と本会との共催により、高知市の高知医療センターにおいて『これからの地域包括医療・ケア—新しい人材育成をめざして—』をメインテーマに、第26回高知県国保地域医療学会を開催。地域保険としての国民健康保険の理念に則り、地域医療の実践の方途を探索し、相互に研鑽を図ることを目的に、県内の国保直営診療所等の医師や看護師など、国保関係者およそ150人が参加した。



優秀研究発表表彰



続いて優秀研究表彰を行い、前回開催の第25回高知県国保地域医療学会において「山間部へき地診療所におけるオートプシイメーシング(Ai)死亡原因の解明」と題して研究発表を行った四万十町国民健康保険大正診療所の診療放射線技師・大川剛史氏に対する表彰を行った。

特別講演

「みんなで守る地域医療
—大学・自治体・医療機関・住民との連携—」

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
総合診療医学分野
特任教授 谷 憲治氏



徳島大学では、平成19年に徳島県の受託講座として「地域医療学分野」を開講。現



在は「総合診療医学分野」に改称し、活動を継続している。主な活動は、総合診療能力を備えた医師の育成や地域医療に携わる医師のサポートなど。

開講とともに医学部の臨床実習に地域医療実習が導入された。医学科5、6年生の医学生全員が徳島県南の海部郡に泊まり込み、地域医療に貢献する中小規模病院や離島診療所の他などを巡る研修を行っている。

一方、19年の講座誕生に合わせて、医学生によるサークル「地域医療研究会」を結成した。11人で始まったサークルは現在130人に増加し、徳島県内の医療施設を中心に、地域医療に関する実習や講演会への参加を行いながら、阿波踊りなど徳島の文化に親しむ活動もしている。

このような卒前教育によって、地域医療に情熱を燃やし、総合診療能力の修得をめざす学生に対し、卒後も継続した研修プログラムを作成することが重要であると考ええる。

4年前、われわれは大病院の初期研修プログラムの中に1年間を徳島県内の地域医療施設で研修できるプライマリ・ケアコースを設けた。このプログラムによって、学生時代に実習指導を受けた地域医療施設の医師の下で、今度は同僚医師として研修を受けることが可能となった。これまで3人の研修医がこのプログラムを選択し、全員が地域医療研究会に在籍したメンバーである。

医師確保では「総合診療」をキーワードとしながらも専門医や大学院研究など、さまざまな個性に対応できる仕組みをつくっていくことが重要と考える。地域医療に貢献できる医師の育成への徳島大学の取り組みは、学内外のさまざまな機関や住民との連携によって成り立っている。

研究発表

研究発表では、医師・技術者・看護部門からそれぞれ3題、計9題の発表を行った。

総司会



仁淀川町国民健康保険
大崎診療所
所長
沖 勇一
(医師部会副部長)

開会式

学会は、今西芳彦・高知県国保地域医療推進協議会会長(本山町長)の主催者あいさつで開会し、3人の来賓が祝辞を述べた。

主催者あいさつ



高知県国保地域医療推進協議会
会長 今西 芳彦



高知県国民健康保険団体連合会
常務理事 井上 晃

来賓あいさつ



高知県健康政策部国保指導課
課長 清田 浩嗣氏



全国国民健康保険診療施設協議会
会長 青沼 孝徳氏
(宮城県涌谷町国民医療福祉センター長)



高知医療センター
病院長 武田 明雄氏

【医師部門】座長



佐川町立
高北国民健康保険病院
副院長
浦口 武男氏

研究発表者

演題1「脱藩の道は閉ざされつつあるのか!?紹介先医療機関の変化から患者の受診動向を考える」



梶原町立国民健康保険
梶原病院
医師
藤原 学氏

演題2「超音波で測定した腹膜前内臓脂肪厚と動脈硬化危険因子の増悪との関連」



四万十市国民健康保険
西土佐診療所
医師
濱川 公祐氏

演題3「義歯誤飲事故を予防するために新技術OIM法と義歯手帳の有用性を検証する」



四万十町国民健康保険
大正診療所
医師
高芝 俊二氏

高知大学では、平成4年から国保直診など地域医療実習が始まり、現在も続いている。また、16年からの医師臨床研修制度では、地域医療が必修と



パネラー

高知大学医学部医学科家庭医療学講座
教授 阿波谷 敏英氏

『地域と協働した人材育成をめざして』



助言者

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
総合診療医学分野
特任教授
谷 憲治氏



助言者

全国国民健康保険
診療施設協議会
会長
青沼 孝徳氏



座長

いの町立国民健康保険
仁淀病院
院長
松浦 喜美夫氏
(医師部会長)

パネルディスカッション

テーマ

『これからの地域包括医療・ケア—新しい人材育成をめざして—』

なった。複数の医療機関や福祉保健所をブロック別にした高知県方式と呼ばれる統一プログラムで、県内の多くの研修医が学んだ。

高知県へき地医療協議会が組織され、安定的に医師が従事できる仕組みをつくったこと、国保地域医療推進協議会とともに地域包括医療・ケアの推進がその受け皿となったことは評価されるべきことである。国保連合会の修学生制度に加え、地域枠をはじめとした県の奨学金を受けた学生や研修医が急激に増加している。

これからの人材育成には、職種・組織・地域を超えて協働することが大切と考える。私たちは、本当に地域志向性のある医療者を育ててきたか？この問いに次の10年で自信を持つて答えられる高知県に、皆さんと一緒になりたい。

『地域包括医療・ケアと保健師を「つなぐ」ための課題—保健師教育の立場から—』

高知大学医学部看護学科地域看護学

講師 杉本 加代氏

保健師は「見る」↓「つなぐ」↓「動かす」のサイクルで活動している。「見



これからの最大の課題といえる。

高知大学での保健師実習は「見る」に至るまでの過程も重視している。地域を見るためには「行つて」「見て」「触つて」「感じて」「分かる」ことが大事。市町村での実習は将来、保健師として住民の生活を把握する上で必ず役に立つ。

対象者の生活状況を理解できる力を持った学生を二人でも多く、保健・医療・介護・福祉の現場へ「つなぐ」ことが、これからの最大の課題といえる。



パネラー

る」とは、住民の生活習慣や健康課題を把握すること。次に課題解決のために必要な関係者を「つなぐ」。さらに、つながった人が解決に向けて取り組めるよう「動かす」。そして、その変化をまた「見る」。この協働は保健師の得意とするところであり、住民が「地域包括医療・ケア」に参加するためには、生活状況を理解できる保健師の活躍が必要である。

『体験・体感して成長する』

香川県三豊総合病院企業団リハビリテーション科
技師長 木村 啓介氏

人材育成は、長期実習から始まると考える。当院では30年以上前から長期実習生を受け入れている。訪問リハビリには、検査値やCT・MRIが無い状態から判断できる知識と経験にプラスαが必要な専門分野であることを実習期間に体感してもらいたい。

また、地域リハを体感し、リハビリテーションの原点に戻ることが重要。病院は患者にとつてアウェイ。われわれは疾患にしか目がいかない。一方、在宅は患者にとつてホームであり、私たちは患者の心情を体感する。地域リハは、さまざまな職種・患者・家族の価値観が感じられ、リハビリテーションの原点に立ち返ることができる。

さらに、専門性は持つても専門バカにはならないことが必要。当院は各種資格の取得や学会発表を奨励しているが、その分野しか診ないといった専門性は取っていない。なぜなら患者の多くは幾つもの疾患を持っているから。



パネラー



【技術者部門】座長



佐川町立
高北国民健康保険病院
臨床検査技師
中田 奈美氏
(技術者部会長)



本山町立国民健康保険
嶺北中央病院
主任放射線技師
安岡 俊孝氏
(技術者部会副部会長)

研究発表者

演題4「義歯誤飲によって縦隔炎を起こした症例／X線単純撮影・CT撮影に写る義歯の開発・普及を望む」



四万十町国民健康保険
大正診療所
診療放射線技師
大川 剛史氏



四万十町国民健康保険
大正診療所
理学療法士
長森 誠二氏

演題5「痛みに対して関節包内運動学的アプローチを用いての考察」

【看護部門】座長



四万十市国民健康保険
西土佐診療所
管理栄養士
篠田 知佐氏



本山町立国民健康保険
嶺北中央病院
総看護師長
松高 栄子氏
(看護部会長)



四万十町役場
健康福祉課
保健師
小野川 恵利氏
(看護部会副部会長)

研究発表者
演題7「当院における『一般市民向け糖尿病セミナー』の効果とその課題」



四万十市国民健康保険
四万十市立市民病院
看護師
岡上 則子氏

演題8「自治体病院に勤務する看護師の精神的健康に影響する要因」



本山町立国民健康保険
嶺北中央病院
看護師
石田 三記氏

演題9「医療療養病棟における夜勤看護師の精神的ストレス」



佐川町立
高北国民健康保険病院
看護師
松木 明美氏

パネルディスカッション

テーマ『これからの地域包括医療・ケア—新しい人材育成をめざして—』

パネルディスカッションでは、『これからの地域包括医療・ケア—新しい人材育成をめざして—』をテーマに、パネラーが日ごろの取り組みなどについてそれぞれ発表を行った。発表後は座長、助言者、パネラーおよび来場者との間で活発な議論を繰り広げた。



「その人らしい生活を実現！」 住民とともに地域を支える 仕組みづくり



Vol.63
安田町

鮎おどる清流・安田川

おらんくの 保健事業

ORANKU NO HOKENJIGYO

鮎の暮らす清流のまち

安田町は県東部、太平洋に面した自然豊かな清流のまちです。中心部を流れる清流・安田川は「日本一の鮎がすむまち」として有名で、毎年多くの太公望が訪れています。

上流の中山間部では造林業をはじめ、露地野菜やゆず、自然薯の栽培が盛んです。一方、下流の平野部では、蔬菜園芸発祥の地として古くから施設野菜を中心に農業が発展してきました。



面積 52.30km²
人口 2,964 人
国保被保険者数 1,107 人
高齢化率 39.6%
(平成 25 年 1 月末現在)

安田町町民生活課

診の受診率を高め、病気の早期発見・治療、生活習慣病の予防対策に力を入れ、医療費の適正化、事業運営の安定化に取り組んでいます。

まだまだ低い特定健診の受診率

平成21年には、まちの玄関口にあたる国道55号沿いに総合交流拠点施設として「輝るぼーと安田」が完成。地元野菜や特産品を販売する地場産品販売センターと、地域食材を生かした料理を提供するレストランは、まちの魅力を発信する施設として日々にぎわいを見せています。

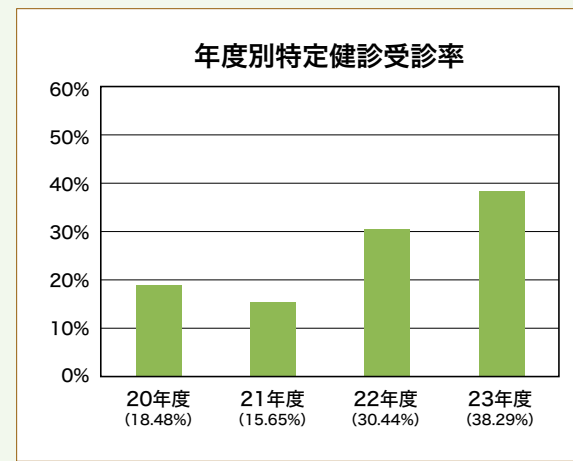
産業構造から成る
まちの実態

24年にはスイーツ工房「キララ」がオープンし、地元の果物や牛乳を使ったスイーツは、安田町の新しい名物として期待が広がります。

国保被保険者数は、25年1月末現在で1107人。町人口の約37%を占め、その多くは施設園芸を主体とした農業従事者となっています。

本町は産業構造の特性上、慢性的な疲労の蓄積や疾病初期の未受診者が多い状況にあります。一定の加齢後に病気が進行し医療機関を受診、入院治療といった事例が多いことから、高額医療費の増加などにより、厳しい財政運営が続いています。

そのため、特定健診や各種がん検



の健（検）診が受診できるようにしています。

また、胃がん検診の受診者はもちろん、その他の健（検）診の受診者の中には、朝食を取らずに來られる方もおり、そのような方々のための軽食サービスを実施しています。食生活改善推進協議会の協力を得て行うこのサービスは、大変好評をいただいています。

医療費の適正化に全力を注ぐ

一人でも多くの被保険者に受診していただくため、健診日前には全戸訪問（年2回）を行い、受診勧奨を実施しています。この全戸訪問は、22年度から健康づくり婦人会に協力していただき実施していますが、実施前後の受診率を比較すると、21年度の15・65%に対し、22年度が30・44%と大幅アップにつながりました。

しかしながら、受診率40%の壁が高く、手が届きそうで届かない停滞状況が続いているため、25年度から新たな取り組みの開始に向けて現在検討を進めているところです。

被保険者が毎年、健（検）診を受



あんた 安田の白い夢マンゴー大福



昨年オープンしたばかりの菓子工房「キララ」



総合交流拠点施設「輝るぼーと安田」



「チーズ!!」受け太くんのパネルは大好評



健康ふれあいまつり

高知大学医学部看護学科から
ご協力をいただきました



ひとくちミニ健康講座。
みんな熱心に聞いています

け、病気の早期発見・治療を行うことは、将来の医療費の適正化につながります。「毎年1回、特定健診の受診は「当たり前」という意識を持つてもらうためにも、これからは受診勧奨に力を入れていきたいと思っています。

支え合い生き生きと 暮らしていくために

本町では、健康づくり推進事業の一環として、毎年「健康ふれあいまつり」を開催しています。体力測定や骨密度などの測定コーナーを設け、生活習慣の見直しなど、自分の健康に関心を持ってもらうための企画を行っています。

また、食生活改善推進員による試食コーナーや食生活改善の啓発パネル、特定健診や各種がん検診の受診率のパネル展示など、疾患に対する予防啓発も行っています。24年度は、高知大学医学部看護学科の協力を得て「健康相談」や「ひとくちミニ健康講座」などを開催することができました。

今後も、町民の皆さんに健康で過

ごすことの大切さを感じてもらい「自分の健康は自分で守る」という意識を高め、いつまでも元気に暮らしていくための支援を行っていきます。

地域をつなぐ「あったか ふれあいセンター事業」

本町では、21年度から「あったかふれあいセンター事業」に取り組んでいます。24年度からは、社会福祉協議会とJA土佐あきに委託し、子どもから高齢者、障がい者まで、誰もが集える場として開催しています。

また、町内に2カ所の拠点施設と、9カ所のサテライトを設置し「いきいき百歳体操」「かみかみ百歳体操」など、高齢者の介護予防事業にも取り組んでいる他、放課後児童の居場所づくりや幼稚園児との交流、季節ごとの行事などを行っています。欠席が続く方には、見守り訪問などを実施し、地域の見守り役としての機能も果たしています。

さらに、毎週水曜日には、障がい者の社会参加と自立支援を目的とした「ほたるの会」を実施しています。地

チームで取り組む

母子保健では、妊娠期から関わりを持つことで、出産後にスムーズな育児ができることをめざして、助産師などと保健師がチームで支援していく取り組みも開始しました。

子どもの発達についても相談支援事業所などと協働し、乳幼児期→保育所・幼稚園→学校→就労と、切れ目が生じないようにつないでいく仕組みづくりをめざしています。

住民とともに…

障がい者支援では、ニーズに応じてその人らしい生活を実現するための、地域生活を支える仕組みについて、障害者自立支援協議会や住民主体のまちの応援団で検討しながら進めています。相談支援体制の充実を図ることで、その人らしさの実現をめざしています。

まだまだこれからも推進していく

健康増進事業でも健診業務の他、女性の健康づくりに着目した取り組みや啓発活動を展開しながら、住民とともに健康づくりを考え推進していきます。

専門職が連携し 「出前講座」を実施

域ボランティアのサポートで、障がい者の方たちが「ほたる喫茶」を開き、おまんじゅうを作ったり、あったかふれあいセンターの参加者が手掛けた手芸品を販売するなど、世代間交流や支え合いの場となっています。

集会所単位で活動している各地域の自治学級から、健康づくり教室の要望があれば、保健師や栄養士、国

保担当職員などが地域に出向いて健康づくりに関する「出前講座」を実施しています。講座では生活習慣病やメタボ、介護予防などの話をして

います。また、それと併せて地区別の特定健診の受診率を示し、地域ぐるみで特定健診の受診率向上に取り組めるよう、呼び掛けをしています。

子どもたちの健やかな 成長を願って

本町では、認定こども園で虫歯の



いきいき百歳体操でいつまでも元気に



流しそうめんで和気あいあい



「ほたる喫茶」でほっと一息



歯科指導。「上手に磨けているかな?」



食生活改善推進員による郷土料理学習



会場は多くの親子づれでにぎわい、おだやかな1日になりました



健康啓発ビデオ
つくりました!

小学5・6年生71人が新健診に参加

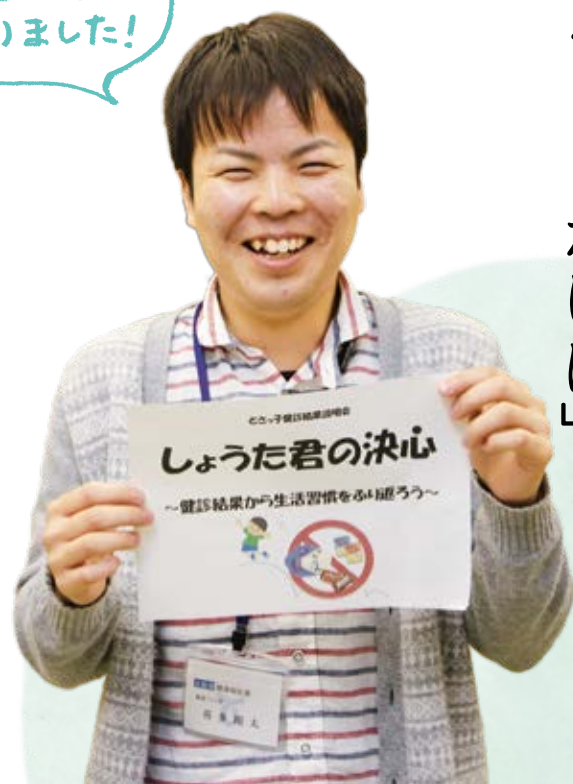
土佐市では24年度、小さいころから健康意識を高めることで将来的な生活習慣病を予防しようと、市内の小学5・6年生を対象に生活習慣病予防健診『とさっ子健診』を開始しました。

昨年12月に身体測定や尿、血液などの検査を実施し、年明け2月には、保護者を含めた健診結果説明会を開催しました。健診当日、会場となった保健福祉センターには、朝早くから子どもたちが保護者とともに参加。少し不安そうな子どもたちでしたが、会場には友だちがいっぱい。すぐに不安が吹っ切れ、笑顔がこぼれていました。

「身長、伸びちゃった?」「注射、痛かった?」。友だち同士でおしゃべり。会場内は、終始にぎやかな雰囲気となりました。

「身長、伸びちゃった?」「注射、痛かった?」。友だち同士でおしゃべり。会場内は、終始にぎやかな雰囲気となりました。

今回、初めての開催となったとさっ子健診。市の広報誌や小学校を通じた呼び掛けなどにより、児童合わせて71人が受診しました。



地域の「たから」 ちいキッズ!

わがまちの子育て支援 (Vol.4)

「家族みんなで健康を考えるきっかけに」
小さいころから健康への意識を高めるための
新しい取り組み、その名も『とさっ子健診』。
子どもたちの健康を
将来に向かって守っていきましょう!
土佐市保健福祉センター「とさっ子健診」—土佐市—



高知県在宅保健活動者 **なでしこの会**

スローガン

会員の力を結集し楽しく進めよう
地域の健康づくり



国民健康保険の安定のため、支援をしているところですが、高知県は少子高齢化や人口減少を背景に疾病予防、医療環境整備、医療費適正化、人材確保等の健康課題が非常に多く、地域における保健活動の一層の充実が求められています。

そこで、保健師に寄せられる期待は大きくなっていることから、これまでの県内の保健活動を記録に残し振り返ることで、保健師の支援、人材育成、ひいてはこれからの保健活動のさらなる充実を図る一助とするため、なでしこの会に編集委員会を設けて、企画・編集し、この3月末に保健師活動の伝承記録集として「黒い靄」を発刊しました。発刊に際してご協力いただいた関係各位に感謝申し上げます。

「黒い靄」とは保健師（当時は保健婦）が血圧計や体重計等

の用具を携えて訪問や健康相談等地域で活動する際に用いていた靄で、保健師活動の象徴として本会機関誌「TOSA 国保だより」のコーナータイトルとして今も継承されています。現在「TOSA 国保だより」は年に4回発行しておりますが、毎号「黒い靄」コーナーには、保健師自ら日々の保健活動について自由に寄稿いただき、地域における活動の状況が紹介され、保健師の熱い思いが掲載されています。

前回は昭和38年から60年までの原稿を収録した「黒い靄—高知県下保健婦苦闘の記録—」を昭和60年に発刊していますが、今回の伝承記録集には昭和60年から平成23年度までの原稿を収録しています。

ご意見、ご感想などがありましたらお寄せください。

あて先 なでしこの会事務局

〒780-8536 高知市丸ノ内2丁目6-5

高知県国民健康保険団体連合会

事業課保健事業係

TEL:088-820-8420 FAX:088-820-8416

E-mail: hoken@kochi-kokuhoren.or.jp

配付しております。多くの保健師や保健活動関係者の皆様にご覧いただけると幸いです。



これまでの保健活動を振り返り、さらなる充実を図る

「黒い靄 高知県保健師の記録」 —そこに暮らす住民とともに— 発刊

国民健康保険の安定のため、支援をしているところですが、高知県は少子高齢化や人口減少を背景に疾病予防、医療環境整備、医療費適正化、人材確保等の健康課題が非常に多く、地域における保健活動の一層の充実が求められています。

土佐市から発信。 健康意識の高まりを県全体に

今回の健診は初めての試みともあって、その呼び掛けの輪が保護者同士の口コミで広がっていったようです。

とさっ子健診は、25年度も開催(5年生のみ対象)。26年度には、今回、受診した6年生の経過観察も踏まえ、中学2年生を対象にした健診を計画しています。また、より層の厚い取り組みをと、従来の学校健診に市の保健師が介入していくなど、今後子どもたちへの健康づくり体制の充実・強化を図っていくとのこと。

「この健診がきっかけで、家族を含めた健康意識の高まりにつながれば」とスタッフの皆さん。子どもたちの健康を将来に向けて守っていく新たなプロジェクトの今後に大きな期待が膨らみます。

これからが本番。 健診の未来への発展に向けて



健診企画の中心メンバー
左から、濱田智佐さん、楠瀬しのぶさん、片岡亜沙美さん、徳廣里紗さん

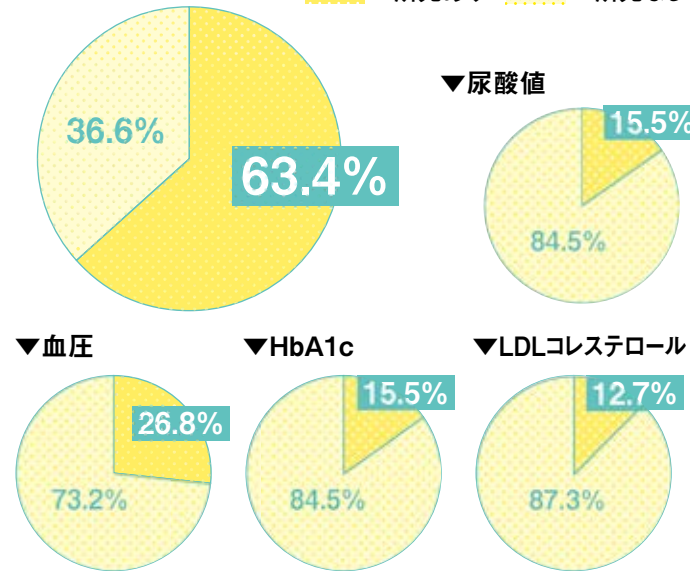


土佐市保健福祉センター 健康福祉課

土佐市高岡町甲1792-1
TEL 088-852-1113

とさっ子健診の受診結果

▼有所見率



正常値超えが63.4%、驚きの結果

3月上旬、今回の健診結果全体の詳細が発表されました。

受診した児童71人のうち45人(63.4%)が血圧や腎機能に関わる尿酸値、悪玉とされるLDLコレステロールなど、11項目で正常値を超えるなどの結果が判明。所見があった割合が高い順に、高血圧26.8%(19人)、尿酸15.5%(11人)、糖尿病の危険度を示すHbA1c15.5%(11人)、動脈硬化の危険因子となるLDLコレステロール12.7%(9人)という結果です。

所見の有無で比較してみると、有所見者において、運動習慣がない、就寝時間が遅い、排便習慣が不規則などの傾向がみられました。

市では、これには普段の生活習慣と、野菜の摂取量や間食の有無など食生活が大きく影響しているとみて、今後、運動する時間の確保と、薄味に慣れることやバランスの取れた食事の習慣付けなどの総合的な取り組みが必要であると分析しています。

家族みんなで
健康意識を高めよう!



身長のびたかな?



視覚で訴えるための スタッフの工夫

2月2日には、12月に実施した検査の分析を基にした健診結果説明会を開催。この分析は、高知県立大学の協力を得て、健診数値と問診を基に、生活習慣との関連などを分析したものです。

説明会では担当スタッフが、健診結果や健康な体をつくるためのポイントなどを説明。また「家族みんなで健康を考えるきっかけになれば」と、健康福祉課が制作した健康啓発用のオリジナルビデオ「しょうた君の決心」を上映。このビデオは、健康福祉課のスタッフ自らが出演したものです。子どもたちは、ビデオに真剣に見入っていました。

さらに、会場には日ごろスーパーで目にするお菓子やジュースなどを並べ、ひと目で分かるよう栄養成分などを表示。また、ジュースに含まれる砂糖の量をスティック砂糖に置き換えて展示していました。

「このジュース、こんなに砂糖が入っちゃうがやあ!」と、みんな驚きの様子。分かりやすく視覚で訴えるためのスタッフの工夫が光っていました。

ビデオ制作
スタッフです!



参加者はスタッフの説明を熱心に聞いていました

初めての血圧測定に みんな興味津々

12月15日、健診スタッフも少し緊張している様子でした。

会場では、はじめに身長・体重・腹囲の計測からスタート。血圧測定の他、尿や血液検査を行い、腎臓・肝臓の機能や糖尿病、動脈硬化などの危険度を調査しました。

「血圧測定は初めて」という子どもたち。見たこともない機器にみんな興味津々です。

さらに、朝食や運動の有無、お菓子・ジュースなど、間食の頻度などを聞く個別問診も実施。「ジュースは1日どれくらい飲む?」「お菓子は何か食べよう?」の質問に子どもたちも少し照れ笑い。お父さんお母さんも一緒になって、生活習慣の見直しを考えるきっかけになったのではないのでしょうか。



小学生に大人と同じ 検査項目を実施

土佐市では、特定健診の導入前に実施していた「基本健診」の受診率が低迷していました。特定健診が始まった20年度以降は向上したものの、23年度は33.4%。また、県内でも慢性腎臓病など人工透析患者数が多く、医療費が高い傾向にありました。

そこで生活習慣が定着する10代から健診を受ける機会をつくることで、子どもたちの健康への意識を高め、将来に向けた生活習慣病予防の啓発活動に力を入れようと、とさっ子健診に乗り出すことに。小学生に大人と同じ検査項目の健診を実施するのは県内で初めて。事業の開始にあたっては、事前に担当スタッフが先進的に取り組んでいる兵庫県尼崎市の「あまっ子健診」を視察し、そのノウハウを学んできました。

5年、10年、15年と、
子どもたちの未来を
映し出す健診になれば





『I♥めん類』

● 南国市市民課国保係
主事 湯浅 壮平

皆さん、はじめまして。23年4月から南国市役所に新規採用となり、そろそろ2年目が終わろうとしています。湯浅と申します。

市役所に入る前は、市の出先機関である領石支所で4年間、住民票や戸籍などの発行業務を行う嘱託職員として勤務していました。社会人生活が初めて、というわけではないのですが、なにぶん聞き慣れない国保業界の言葉や、初めて知る国保制度に戸惑いつつも、優しい先輩方の指導を受けながら2年が過ぎようとしています。

ですが、今回、光栄にも私がコーヒーブレイクの筆者に抜てきされましたので、私の好きなもの“について三つお話ししたいと思います。

まず一つめは『うどん』です。タイトルが『I♥めん類』なので、皆さんお察しの通りかと思いますが、なんと私は大の麺好きです。中でもうどんが好きで、3食全でうどんでも構わないと自負しています。市役所での昼食もうどんしか食べていません。、うそです。最近では、パンが多いです(笑)。皆さん、県内でオスメのうどん屋さんがあれば、ぜひ教えてください。

そして二つめは『猫』です。今から6年ほど前、母親が捨て猫を拾ってきました。これまでもそういうことはよくありましたが、大抵は母親に懐き、私には見向きもしませんでした。今回は私にもよく懐いてくれ、今では愛猫の名前を自分の携帯電話のメールアドレスにするくらい親バカと化しています。

最後に三つめは、ベタですが『南国市』です。私は生まれてから一度も、南国市以外の場所で生活をした経験がありません。小さいころから何となくですが「将来は、このまちで働くんだろうなあ」と考えていました。まさか市の職員として働くことになるとは…。

ここ南国市はのどかで良い所です。皆さん、ぜひいらしてください。



南国市市民課国保係の皆さん
(3列目) 左から 松倉主事 大谷主事 近藤主事 秋田係長
(2列目) 左から 田中課長 上田主査 清杉課長補佐兼係長
(前列) (筆者) 湯浅主事

『母へ』

● 大月町民福祉課国保係
主事 谷岡 世菜

「自分のこと大切にして誰かのこと そっと想うみたい」に 切ないとき ひとりではないで 遠く 遠く 離れていけないで」

この小田和正さんの『たしかなこと』という曲を聴くと、母の哀しい顔がふと思い浮かびます。そして、それと同時に何か胸に込み上げてくるものがあります。それは、情けなさであったり、後悔であったり…。

私は、高校までずっと実家通いでした。高校を卒業し、

高知市の公務員学校に入ることが決まって、「憧れの一人暮らしができる。やっと、親の元から解放される」。そんな気持ちでした。

4月、待ちに待った引っ越しの日。母は目に涙をたくさんため、

「世菜、ずっと大好きよ」と私に抱きついてきました。一生の別れになるわけでもないのに。公務員学校へも「世菜は大月から汽車で通うもんね」と言っていたくらいです。

私は、こんな母の気持ち

にどこか窮屈さを感じていました。

でも、いざ親元を離れて暮らしてみると、何もかも自分ではなくてはいけなかり、今まで親任せにしていたことにあらためて気付かされました。

今まで私は、親孝行など何一つしてきていません。見放されてもおかしくないほど迷惑も掛け、泣かせてしまったことも何度かありました。それでも母は私のことを信じて、最後まで味方でいてくれました。



(左・筆者) 谷岡主事と母親

これからは母の願うような私になりたい。

「母さん、いつも支えてくれて心からありがとう」。



もっとまちを好きになる — 住民から学ぶ保健活動 —



高知市健康づくり課
道脇 みか



地域がつながる集いの場
サロン大崎さんち

開所に向けて話し合いを重ね、24年7月に「サロン大崎さんち」が始まりました。「今まで知らなかった町内の人と親しくなれてうれしい」「ここへ来て人と話すのが毎週の楽しみ」という喜びの声が多く聞かれ、「最近〇〇さん見かけんだけど、どうしゆうろうね？」と近隣の人を気にかける声掛けも増えました。

また、防災訓練として特別に設定するのではなく、サロンでにぎやかに昼食会を行うことが、炊き出し訓練にもなっています。



「サロン大崎さんち」。話に花が咲きます。皆さんいい笑顔

高知市上本宮町は、本市の北西部に位置する旭地区にあり、鏡川と緩やかな山に囲まれた5つの町内会からなるまちです。25年1月1日の人口は1370人、高齢化率は35・0％で、市全体の24・7％、旭地区の27・2％と比較すると高齢化が進んでいます。数年前より、町内住民から認知症の方の相談が相次いでおり、西部地域高齢者支援センター旭分室や旭出張所の職員らが個々の支援について検討を重ねていました。今回は、そんな上本宮町で始まった住民活動について紹介します。

出会うは「いきいき百歳体操」

上本宮町の山手町内会では、南海大地震に備えるべく自主防災組織を立ち上げており、22年には世話人会を結成して勉強会を始めました。しかし、防災会に集まる人はいつも決まった少数の住民に限られていたため、世話人は活動の展開に悩みを抱えていました。そのころ、隣の中町内会では認知症の勉強会を行ったことがきっかけで「まずは、住民一人一人が元気でいられることをめざしたい」という思いから、いきいき百歳体操（以下、「体操」）を始める運びとなっていました。



「おんちゃんクラブ」。手づくりのごはんとお酒で乾杯！

さらに、女性だけでなく男性にも町内とつながり仲間づくりをしてもらいたいという思いから、夜のサロン「おんちゃんクラブ」も企画しました。お酒を交わすことで、団塊世代の男性の引っ張り出しにも成功し、広がりが見られています。

住民活動の広がり
住民の関心の高まりを実感！

「サロン大崎さんち」を通して町内の知り合いが増え、住民同士の関わりが深まっています。24年11月に行った防災訓練には、前回より多くの住民の参加が見られました。自主防災組織の役員会に名乗りを上げてくれた方もお



いきいき百歳体操で私もあなたも元気！

そして24年1月の体操初日には、会場へ入りきらないほどの住民が集まりました。それを見た世話人は、「これや！私たちの町内会でも体操を始めよう！」と決意。体操会場の運営をお世話する通称「お世話役」となって翌2月から山手町内会でも体操を開始しました。

支え合いマップづくりから
「サロン」「みまもりカード活動」へ

その後、山手町内会のお世話役から「体操に来てほしい人をどうやって誘えばいい？」「交流を深めるために、体操の後にお茶会をしたい」という相談があり、お世話役や町内会長、班長、民

り、自主防災組織の活動がスムーズに運ぶようになってきました。お世話役や町内会長は、住民一人一人の近隣住民や町内活動への関心が高まってきたことを実感し、長年の悩みであった自主防災組織の活動が一部分の住民だけのものではなく、町内全体に広がっていくことに喜びを感じています。今後も、住民が互いに励まし支え合う「地域の絆」を強くするために、住民活動を発展させていきたいと希望に満ちています。

住民と一緒にまちの現状を知り、考え、行動する

この活動には、西部地域高齢者支援センター旭分室や旭出張所、高知市社会福祉協議会、高知県社会福祉協議会の職員とともにチームを組んで関わりました。チームで関わったからこそ、住民の漠然とした思いや計画に対してそれぞれの得意分野を生かした参考例とその方法を紹介することができ、住民が具体的かつ段階的に考えることを継続してサポートすることができたと思います。

そして、住民と一緒に活動する中で私が思うことは、皆さんが自分の住んでいるまちを大切に思い、より良いま



私たちのまちをより良くするため、みんなで話し合いました

生委員らとともに支え合いマップづくりを行いました。少し心配だなと思う住民のことや、山手町内会の現状について情報を出し合い、「こんなまちにしたい！こんな活動をしたい！」という思いを語り合いました。その結果、「避難生活を強いられるときに、住民同士で助け合うためには、日ごろからのつながりや仲間づくりが必要」「気軽に集まりコミュニケーションが図れる場をつくろう」「災害・緊急時に迅速な対応ができるよう、個人の必要な情報を書いたカードを自宅に置いておこう」といった方針が固まり、「サロン」と「みまもりカード活動」を始めることが決定しました。

ちにしたいと願っていること。そして、まちの外に住んでいる人から、まちの良さを認められ、住民同士でその思いをムクムクと膨らませることができれば、住民活動につながっていくということです。

住民と一緒にまちの現状を知り、考え、行動することで、みんながもっとまちを好きになる。これこそが保健活動の面白さだと思います。

これからたくさんの人と出会い、住民や先輩保健師、関係者の方々に学びながら保健活動に取り組んでいきます。



山手町内会の3カ所で防災訓練を行い、約70人が参加しました

豆腐にひと手間、おしゃれなイタリアンに

豆腐のイタリアン フレッシュトマトソース

豆腐のあっさりした味に、トマトの酸味とチーズの香りがベストマッチ。
スナップエンドウのシャキシャキした食感が味の表情を豊かにします。
ボリュームがありますが、とってもヘルシーなイタリアンです。

◎材料(2人分)

木綿豆腐……………1丁
塩・こしょう……………少々
小麦粉……………大さじ1/2
卵……………1個
顆粒コンソメ……………少々
粉チーズ……………大さじ1/2
オリーブオイル……………適宜
スナップエンドウ……………1/2本
トマト……………1個
ペピーリーフ……………適宜

◎作り方

- ①豆腐は縦1/2に切った後切り口を下にし、縦に4等分する。
- ②①の豆腐をクッキングペーパーに包み電子レンジに1分かけ水切りをする。
- ③②の豆腐に塩、こしょうをし、小麦粉をまぶしておく。
- ④卵をボールに入れ割りほぐし、顆粒コンソメ、粉チーズを入れさらに混ぜておく。
- ⑤フライパンにオリーブオイルを熱し、③の豆腐を④の卵液にくぐらせ並べ入れ、返しながらこんがりと焼き色を付ける。
- ⑥スナップエンドウはさっと塩ゆでにして、半分に切る。
- ⑦トマトは荒みじん切りにしておく。
- ⑧皿に、⑤の豆腐を並べ、⑦のトマトをかけ、⑥のスナップエンドウのをせ、ペピーリーフを飾る。

1人分
エネルギー 272kcal たんぱく質 19.1g 塩分 1.1g

◎メモ

- ・お好みで仕上げにオリーブオイルをかけてどうぞ。
- ・ペピーリーフの他に、ゆでたブロッコリーなどを使ってもOK。



ヘルシーごはん

vol. 23

食べてみい^みや! 味てみい^みや!!

とろける豆腐と辛さのハーモニー

麻婆豆腐

とろける豆腐の食感に豆板醤の辛み、炒めたひき肉のコク、食欲を誘うにんにくと生姜の香り、そしてネギのシャキシャキ感が食感にアクセントを加え、一口また一口と食べてしまいます。

◎材料(2人分)

豆腐……………1/2丁
ネギ……………30g
にんにく……………小さじ2
生姜……………小さじ2
ごま油……………小さじ1
豚ひき肉……………120g
豆板醤……………適宜
片栗粉……………小さじ1
—A—
水……………40ml
酒……………小さじ2
しょうゆ……………小さじ2
鶏ガラスープ顆粒……………2g
味噌……………小さじ2

◎作り方

- ①豆腐はさいの目切り、ネギは小口切りにする。
- ②にんにくと生姜はすりおろす。
- ③調味料Aはあわせておく。
- ④フライパンにごま油を入れて熱し、にんにくと生姜を入れて炒める。
- ⑤豚ひき肉を炒める。火が通ったら調味料Aを加え、豆腐を入れてひと煮立ちさせる。
- ⑥豆板醤とネギを入れる。味見をして、調整する。
- ⑦片栗粉は水でといっておき、最後に流し入れる。

1人分
エネルギー 265kcal たんぱく質 19.5g 塩分 1.5g

◎メモ

- ・豆腐の種類はお好みで。 ・豆板醤の量で辛さの調節ができます。
- ・ご飯にかけてもぴったりです。



「豆腐」について知ろう

安くてヘルシー。でも、良質なたんばく質が豊富で栄養価の優れた豆腐。私の家の冷蔵庫では常備している食品です。
冷奴や湯豆腐のようにそのまま、また、料理をしてもおいしく食べられます。豆腐のことをよく知ると、もっと使いたくなるに違いありません。
今回は、豆腐をメインに使用した中華料理とイタリア料理をご紹介します。

豆腐の種類とその違い

豆腐の原料は大豆で、大豆を磨碎、加熱し、絞った豆乳を凝固させて作りますが、豆腐の種類によって栄養価もことなってくることをご存知ですか？

木綿豆腐…… 豆乳から上澄みを除いて重しをして作ったもの。
カルシウムは絹ごし豆腐の3倍、たんぱく質も少し多い。

絹ごし豆腐 … 豆乳全体を固めたもの。
ビタミンB群は木綿豆腐よりも多い。

おから ……… 豆腐を作る時に出るしぼりかす。
食物繊維が多く、タンパク質やカルシウムも多い。

	木綿豆腐	絹ごし豆腐	おから
エネルギー (kcal)	72	56	111
たんぱく質 (g)	6.6	4.9	6.1
カルシウム (mg)	120	43	81
食物繊維 (g)	0.4	0.3	11.5

(豆腐 100g 中) 五訂日本食品標準成分表より

豆腐(大豆)の

栄養注目成分

イソフラボン

女性ホルモンのエストロゲンと似た働きをする作用があり、植物エストロゲンとも呼ばれています。
エストロゲンには骨からカルシウムが溶け出るのを防ぐ働きや、イライラしたりのぼせたりする不快な症状を抑える働きがあります。

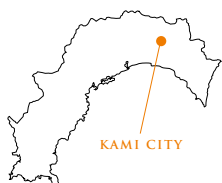
大豆サポニン

強い抗酸化作用があります。また、中性脂肪を低下させ、肝機能の障害を改善する効果があるといわれています。



管理栄養士
にしもり みよ
西森美恵

管理栄養士であり、「高知県在宅保健活動者なでこの会」副会長をはじめ、食育を考える地域活動栄養士の会「トマトの会」代表などを務める。食育を通じて、おいしく楽しく健康的な食生活の実践をめざし、地域に密着した栄養相談・料理講習会・講話などの活動を行っている。



元氣散策！
このまちからの笑顔だより
香美市

「先人の心、ここにあり」

鍛え上げられた

伝統の切れ味

とさうちはもの
— 土佐打刃物 —

手付かずの
自然が織り成す
美しい景観。
渓谷を彩る
鮮やかな新緑。
豊かな自然と
伝統が残るまち
香美市で
あたたかい笑顔に
出会いました。



伝統工芸士 山下 哲さん(64)



土佐の匠、 鎌鍛冶職人を訪ねる

高知市から東へおよそ20km。県三大一級河川の一つ物部川の中流域に広がる香美市は、土地のおよそ9割を山地が占める緑豊かなまち。

平成18年には、物部川源流域の町村として古くからなじみの深かった土佐山田町・香北町・物部村が合併。「輝き・安らぎ・にぎわいをみんなで築くまちづくり」を理念に、豊かな自然環境を生かした産業振興に取り組んでいる。

「土佐伝統工芸の残るまち」としても有名な香美市土佐山田町。無駄のないデザインと切れ味の良さが魅力

二代目、鎌鍛冶職人の山下哲さんは、この道34年。30歳のときに父親から後を継いだ。平成14年には「伝統工芸士」の資格を取得。熟練の技術を持つ者に贈られる「土佐の匠」に選ばれた。

「常に二生懸命。何よりも切れるものをつくりたい」と64歳のベテラン職人は、一本一本、心を込めて鉄を打つ。

江戸時代にさかのぼる土佐打刃物の歴史

高知県は、全国屈指の温

最後の最後まで心を込めて

土佐打刃物の製法は、日本刀をつくる技術から生まれた。素材は「鋼」と「鉄」。硬度の異なる素材を組み合わせて、熱しながら丹念に打ち鍛えていく。

「焼き入れ」は刃物の硬度・固さを決める大切な作業。火の色と焼け具合で温度を見極める。770℃800度で熱した後、水で急速に冷やすことにより鋼は

硬くなる。

さらに、刃物には硬度だけでなく粘りも必要。そのために行う作業が「油戻し」。170℃220度の油に1時間ほど浸した後、おがくずにつけながらゆっくり冷やしていく。これにより鋼の組織に粘りが戻ってくる。

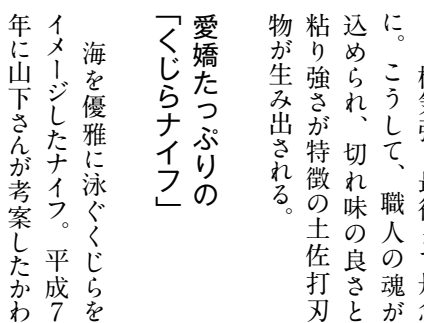
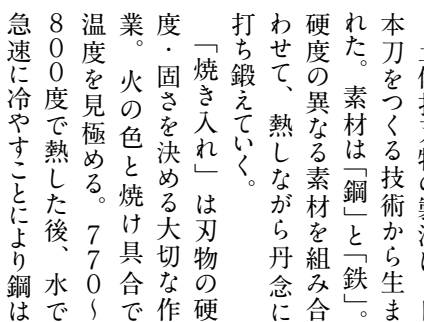
仕上げの作業は「研ぎ」。目視で確認しながら、切れ味抜群の刃物に仕上げていく。根気強く最後まで丹念に。こうして、職人の魂が込められ、切れ味の良さと粘り強さが特徴の土佐打刃物が生み出される。

愛嬌たっぷりな「くじらナイフ」

海を優雅に泳ぐくじらをイメージしたナイフ。平成7年に山下さんが考案したかわ



「研ぎ」の作業。鎌に命が吹き込まれる



赤く焼けた材料が打ち鍛えられ、鎌へと形を変えていく



自分の鎌について話す山下さん。熱い思いが伝わってくる



依然、高い伸び率の 地域密着型サービス — 増加傾向を示す介護給付費 —

○ 介護給付適正化計画とは

高齢化の進展や介護サービス利用者の増加に伴い、介護給付費が急速に増大する中、介護保険制度の信頼性を高め安定的な運営を維持するためには、受給者が真に必要なとしているサービスを事業者がルールに従って適切に提供することが必要です。

このため、都道府県及び保険者が連携して地域の実情にあった介護給付費の適正化を図ることを目的に、取り組むべき課題や目標を定めた計画です。

要介護認定の適正化、ケアプランの点検、住宅改修等の点検、医療情報との突合・縦覧点検、利用者への介護給付費の通知が主要業務と位置づけられ、重点的な取り組みが進められています。

平成24年11月から平成25年1月審査分の介護給付費明細書の確定件数は、月平均7万6400件、対前年度比5.2%の増、給付費は、月平均54億3550万円、対前年度比4.1%の増となっています。

率となっています。また、居宅介護サービスについては、平均で5.7%の増となっていますが、その内訳を調べてみると、通所介護関係の伸び率が、件数で11%、給付費では9%の増と高い水準で推移しています。要介護認定者数及び利用者数が増加しており、今後もこの傾向は続くものと思われる。

介護給付費明細書確定件数の内訳（高知県）

平成24年11月～平成25年1月審査分

	24年11月		24年12月		25年1月	
	(件)	前年同月比	(件)	前年同月比	(件)	前年同月比
施設介護サービス	8,128	103.27%	8,116	103.40%	8,135	102.61%
介護予防支援	6,557	104.61%	6,556	103.55%	6,575	103.46%
居宅介護支援	15,364	104.36%	15,450	104.75%	15,338	103.55%
地域密着型サービス	3,437	110.05%	3,431	110.07%	3,419	107.01%
居宅介護サービス	42,895	106.48%	42,986	106.01%	42,823	105.16%
合計	76,381	105.69%	76,539	105.43%	76,290	104.49%

施設介護サービスが占める割合	10.64%	10.60%	10.66%
地域密着型サービスが占める割合	4.50%	4.48%	4.48%

介護給付費の内訳（高知県）

平成24年11月～平成25年1月審査分

	24年11月		24年12月		25年1月	
	(円)	前年同月比	(円)	前年同月比	(円)	前年同月比
施設介護サービス	2,502,998,647	101.30%	2,427,565,768	101.83%	2,503,838,734	101.34%
介護予防支援	27,935,840	105.01%	27,901,720	103.56%	27,818,000	103.36%
居宅介護支援	200,299,811	105.72%	201,203,718	104.65%	199,380,847	103.15%
地域密着型サービス	737,004,714	110.59%	714,947,880	109.94%	732,444,396	108.09%
居宅介護サービス	2,061,519,750	108.15%	1,999,021,439	105.80%	1,942,663,302	103.19%
合計	5,529,758,762	105.14%	5,370,640,525	104.43%	5,406,145,279	102.95%

施設介護サービスが占める割合	45.26%	45.20%	46.31%
地域密着型サービスが占める割合	13.33%	13.31%	13.55%

常に一生懸命。 何よりも切れるものを。



いくつもの偶然が重なり完成したくじらナイフ。その魅力が全国に広がっている

いいミニナイフは、「第18回ニッポン全国むらおこし展」で最高賞の経済産業大臣賞を受賞した。

誕生のきっかけは、ある母親から「子どもに鉛筆を削らせたので、先のとがっていないナイフをつくってほしい」という相談を受けたことから。さっそくデザインしていると、何となくくじらの形に…。「これだったら高知のイメージにもぴったり。しかも安全で危険なイメージも和らぐのではないかな」と製作を開始した。

全体的に丸みを帯びたデザインにしたところ、第1号のマコウクジラ型が完成。お



土産やプレゼントに好評だったことから、デザインを増やしてシリーズ化。現在は6種類を製造している。

いろいろな人の知恵を借り、試行錯誤の結果生まれたくじらナイフ。この誕生をきっかけに、たくさんの人との切つても切れない「絆」が生まれた。

健康第一。
健診受診は欠かせない

全体を使ってつくり上げる打刃物。工場内の機材は、できるだけ腰に負担が掛からないよう自分用に調節。毎日の作業は体への負担も大きく、定期的なリフレッシュは



熟練を要する機械ハンマーでの作業

不可欠だ。

山下さんのストレス発散方法は、夫婦そろっての「山登り」と「スキー」。海外旅行にもよく出掛けるという。健康には人一倍気を使い、年に回の特定健診も必ず受診しているとのこと。

「健康が一番の宝やきねえ」。刃物づくりの傍ら、日ごろの健康づくりにも余念が無い。

「いいものをつくりたい」。
それが全て

後継者不足が深刻化している製造業界。そんな中、伝統文化を守っていこうと刃物組合所属の鍛冶職人たちが立ち上がった。若手有志で結成した、その名も「ZAKURI」。現在、



新作のアカメナイフ。サンゴで特徴の赤目を表現している

技術の継承と販路拡大をめざし、広報など幅広い活動を展開している。

全国的に鍛冶職人が減り、材料の供給や機械の部品調達などが難しくなっている業界。「存続のためには県内にとどまらず、全国の関係者が手を取り合わなければならぬ」と山下さんが思いを語る。

「使ってもらう人に『この刃物を使って良かった』といわれるものをつくりたいという気持ちは、これまでも、これからもずっと変わらない」。

その笑顔からは、400年の歴史を刻んできた伝統の技、先人の心を未来に向かつて守っていかなければならないという強い使命感が伝わってきた。



●土佐打刃物、くじらナイフのお求め、お問い合わせ



協同組合 土佐刃物流通センター
高知県香美市土佐山田上改田109
電話／0887-52-0467 FAX／0887-53-2684
URL／<http://www.tosahamono.or.jp/>

🌟訪ねた元気人

「富士源刃物製作所」高知県香美市土佐山田町新改
やました きとし
伝統工芸士 山下 哲さん





創意工夫を凝らし保険者の負託に 応えるべく役割を果たしていく

新年度事業計画・予算を原案どおり認定・可決

本会では、平成 25 年度事業計画および予算を定める「2 月通常総会」を
2 月 28 日、高知市の高知城ホールで開催。34 会員の出席のもと、報告事項 3 件
および審議事項 40 議案などを厳正に審議し、原案どおり認定・可決した。

審査支払事務の質の向上と 医療費適正化に一層努めていく



高知県国民健康保険団体連合会
理事長 松本 憲治

開会に先立ち松本憲治理
事長（安芸市長）
は、はじめに国保
制度をめぐる現状
について「地域住民の健康の
保持増進に貢献してきた国保は
今、被保険者の高齢化や経済の低迷な
どにより、その事業運営は大変厳しい
状況が続いている」と言及した。その
上で、昨年成立した社会保障・税一体
改革関連法における市町村国保への
2200 億円の公費投入に触れ、「今
後、国の動向を注視しながら、超高齢
化社会を見据えた制度構築に向け、さ
らなる財源確保に一丸となって働き掛
けていかなければならない」と訴えた。
そして「引き続き、保険者の共同
目的達成機関としての役割を果たし、
審査支払事務の質の向上と医療費適
正化に、なお一層の力を注いでいく」
と新年度に向けた強い意気込みを
語った。

同じ目標に向かい関係機関が 一丸となって取り組みを

来賓のあいさつに立った高知県健
康政策部の松尾晋次副部長は、「わが
国の皆保険制度の基盤を支えてきた

国保は、少子高齢化
や景気の低迷な
どから、その財
政運営は年々厳し
さを増している」と述べた上
で、27 年度から始まる保険財政共同
安定化事業の対象医療費拡大につい
て「市町村国保の広域化への第一歩
であり、県として十分に意見を聞き
ながら、安定した事業運営に向けて
検討を進めていきたい」と語った。



高知県健康政策部
副部長 松尾 晋次 氏

また、県が取り組む日本一の健康
長寿県構想について、母子保健体制
の充実や周産期医療の体制整備、が
ん検診の受診率向上対策など、新年
度に向けた新たな方針を紹介し、「こ
れらの事業の推進には、県と市町村、
国保連合会との連携は必要不可欠」
と訴え、構想の実現に向けたより一
層の連携協力を呼び掛けた。

全議案を原案どおり 認定・可決



四万十町長
高瀬 満伸 氏

本会議では、議長に高瀬満伸・
四万十町長を選出し、議事録署名人に
上治堂司・馬路村長と大西勝也・黒潮
町長を指名。報告事項 3 件
と審議事項 40 議案
などを厳正に審議
し、全議案を原案
どおり認定・可決した。

受賞おめでとうございます 国民健康保険事業功労者理事長表彰

国保事業の運営発展に 貢献してきた 9 氏が その榮譽に輝く

本会議前には、平成 24 年度国民健康
保険事業功労者理事長表彰を行い、被
表彰者に対し、松本憲治理事長から表
彰状と記念品が授与された。

〔被表彰者〕（敬称略）

国保運営協議会委員（在職 15 年以上）
井川富喜子・神田 尚和（高知市）
杉本 圭弘（安芸市）
坂野 均平（東洋町）
青木 茂（佐川町）

国保直営診療施設に勤務する職員
（在職 20 年以上）

藤本 雄治・中平 明人
（いの町立国民健康保険仁淀病院）



表彰状を受け取る井川富喜子氏

1 報告事項

報告第 1 号 会務報告書（平 24・7・26 ～ 平 25・2・19）
報告第 2 号 中間監査報告書
報告第 3 号 平成 24 年度保険者協議会関係業務特
別会計歳入歳出補正予算（第 1 号）理
事専決処分報告

2 審議事項

議案第 1 号 負担金の賦課徴収に関する規則の一部
を改正する規則議案
議案第 2 号 退職者医療共同事業拠出金規則の一部
を改正する規則議案
議案第 3 号 診療報酬審査支払規則の一部を改正す
る規則議案
議案第 4 号 公費負担医療費支払規則の一部を改正
する規則議案
議案第 5 号 特定健康診査・特定保健指導等に関す
る費用支払規則の一部を改正する規則
議案
議案第 6 号 保険者等事務電子計算共同処理規則の
一部を改正する規則議案
議案第 7 号 地域医療推進共同事業規則の一部を改
正する規則議案
議案第 8 号 特別徴収情報経由業務規則の一部を改
正する規則議案
議案第 9 号 平成 24 年度診療報酬等審査支払特別会
計（公費負担医療に関する診療報酬支
払勘定）歳入歳出補正予算（第 1 号）
議案第 10 号 平成 24 年度診療報酬等審査支払特別
会計（出産育児一時金等に関する支払
勘定）歳入歳出補正予算（第 1 号）
議案第 11 号 平成 24 年度後期高齢者医療事業関係
業務特別会計（業務勘定）歳入歳出補
正予算（第 1 号）

議案第 12 号 平成 24 年度障害者自立支援事業関係
業務特別会計（障害介護給付費支払勘
定）歳入歳出補正予算（第 1 号）
議案第 13 号 平成 24 年度障害者自立支援事業関係
業務特別会計（障害児給付費支払勘
定）歳入歳出補正予算（第 1 号）
議案第 14 号 平成 25 年度事業計画制定議案
議案第 15 号 平成 25 年度一般会計歳入歳出予算
議案第 16 号 平成 25 年度診療報酬等審査支払特別
会計（審査勘定）歳入歳出予算
議案第 17 号 平成 25 年度診療報酬等審査支払特別
会計（国民健康保険診療報酬支払勘
定）歳入歳出予算
議案第 18 号 平成 25 年度診療報酬等審査支払特別
会計（老人保健診療報酬支払勘定）歳
入歳出予算
議案第 19 号 平成 25 年度診療報酬等審査支払特別
会計（公費負担医療に関する診療報酬
支払勘定）歳入歳出予算
議案第 20 号 平成 25 年度診療報酬等審査支払特別
会計（出産育児一時金等に関する支払
勘定）歳入歳出予算
議案第 21 号 平成 25 年度後期高齢者医療事業関係
業務特別会計（業務勘定）歳入歳出予算
議案第 22 号 平成 25 年度後期高齢者医療事業関係
業務特別会計（後期高齢者医療診療報
酬支払勘定）歳入歳出予算
議案第 23 号 平成 25 年度後期高齢者医療事業関係
業務特別会計（公費負担医療に関する
診療報酬支払勘定）歳入歳出予算
議案第 24 号 平成 25 年度運営資金特別会計歳入歳
出予算
議案第 25 号 平成 25 年度保険者等事務電子計算共
同処理特別会計歳入歳出予算
議案第 26 号 平成 25 年度保険財政共同安定化事業
高額医療費共同事業特別会計歳入歳

出予算
議案第 27 号 平成 25 年度保険者協議会関係業務特
別会計歳入歳出予算
議案第 28 号 平成 25 年度職員退職手当特別会計歳
入歳出予算
議案第 29 号 平成 25 年度職員厚生資金貸付特別会
計歳入歳出予算
議案第 30 号 平成 25 年度介護保険事業関係業務特
別会計業務勘定歳入歳出予算
議案第 31 号 平成 25 年度介護保険事業関係業務特
別会計介護給付費等支払勘定歳入
歳出予算
議案第 32 号 平成 25 年度介護保険事業関係業務特
別会計（公費負担医療等に関する報酬
等支払勘定）歳入歳出予算
議案第 33 号 平成 25 年度障害者自立支援事業関係業
務特別会計（業務勘定）歳入歳出予算
議案第 34 号 平成 25 年度障害者自立支援事業関係
業務特別会計（障害介護給付費支払勘
定）歳入歳出予算
議案第 35 号 平成 25 年度障害者自立支援事業関係
業務特別会計（障害児給付費支払勘
定）歳入歳出予算
議案第 36 号 平成 25 年度国保高齢者医療制度円滑
導入基金事業特別会計歳入歳出予算
議案第 37 号 平成 25 年度特定健康診査・特定保健指
導等事業特別会計（業務勘定）歳入歳
出予算
議案第 38 号 平成 25 年度特定健康診査・特定保健指
導等事業特別会計（特定健診・特定保
健指導等費用支払勘定）歳入歳出予算
議案第 39 号 平成 25 年度特定健康診査・特定保健指
導等事業特別会計（後期高齢者健診等
費用支払勘定）歳入歳出予算
議案第 40 号 役員の選任を求める議案



地域包括ケアの推進と 高齢者医療・国保制度改革

山崎 泰彦

Yasuhiko Yamasaki

制度改革に向けた 議論の行方

今、社会保障関係者のいちばんの話題は社会保障制度改革国民会議の議論。国保関係者の間では、高齢者医療制度や国保制度の改革がどうなるのか気掛かりだろう。

国民会議は昨年11月末に発足し、政権交代を挟んで、1月までに3回開催された。会議の様子はインターネットで同時中継されている。ホームページにアクセスすれば、これまでの動画を見ることができ、会議の雰囲気までうかがうことができる。

これに並行して3党協議も行われている。民主党は、後期高齢者医療制度の廃止と国保の都道府県営化を、

ける検討事項のうち、積み残しになっている医療・介護の改革から審議に入ることが了解された。

人口推計から見る 地域包括ケアの必要性

一方、これまでの国民会議の議論では、現行の独立型の後期高齢者医療制度を擁護する発言は一部にあったものの、廃止論は今のところ聞かれない。

今後の審議のスケジュールについて、第3回の会議では、2月に2回にわたって経済界、労働界、それに地方団体等の意見を聴取し、3月以降、予定されていた社会保障・税一体改革にお

一体改革では社会保障の充実に充てられる2・7兆円（消費税1%分）程度のうち、医療・介護の充実に1・6兆円程度が充てられることとされている。その課題は多岐にわたるが、これまでの議論を踏まえると、どこに住んでも、適切な医療・介護サービスが受けられる地域包括ケアの推進が検討の大きな柱になる

Writer's Profile

山崎 泰彦 Yasuhiko Yamasaki



神奈川県立保健福祉大学名誉教授

1945年、広島県生まれ。1968年、横浜国立大学卒。特殊法人社会保障研究所（現国立社会保障・人口問題研究所）研究員、上智大学講師・助教授・教授、神奈川県立保健福祉大学教授を歴任。2011年3月、定年退官し現在に至る。

●主な著書 『年金改革論』（共著）『社会保障の財源政策』（共著）東京大学出版会、『年金・医療・福祉政策論』（共著）社会保険新報社、『介護保険システムのマネジメント』（共著）医学書院、『介護保険制度・ゴールドプラン21』（編著）東京法令出版、『社会福祉』（編著）メヂカルフレンド社、『医療制度改革と保険者機能』（編著）東洋経済新報社、『患者・国民のための医療改革』（編著）社会保険研究所、『社会保障』（編著）中央法規出版

のではない。

その必要性は将来人口推計からも裏付けられる。人口推計では、2060年の高齢化率は40%、その3分の2が後期高齢者、2分の1が80歳以上で、年間死亡者数の95%が65歳以上の高齢者になる。地域のあらゆる資源を総動員して、地域ぐるみで高齢者を支えるという地域包括ケアの推進が医療・介護の最重要課題になるのは必然的だ。

疑問を抱かざるを得ない 現行制度

すでに介護保険では、一昨年の改正により、国と地方公共団体の新たな責務として、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスが連携した包括的な支援の推進に努めることを法律で明記し、日常生活圏域ごとの地域ニーズや課題の把握を踏まえた介護保険事業計

画の策定、24時間対応の定期巡回・随時対応サービスや複合型サービスの創設、高齢者の住まいの整備等を行うこととした。

また、昨年の介護報酬の改定においては、地域包括ケアシステムの基盤強化のほか、医療と介護の役割分担・連携強化に向けて、重点的な改定を行った。同様に、昨年の診療報酬改定においても、医療と介護等の機能強化や円滑な連携、在宅医療の充実に向けて、重点配分が行われたところである。

そのような課題と方向性からすると、高齢者介護に密接に関連する後期高齢者医療制度が現行のままではないのか、疑問を抱かざるを得ない。都道府県単位であるがために、地域の取り組みが当該市町村の高齢者の保険料や財政負担に反映されず、地域の取り組みを阻害しているからである。

医療・介護の連携強化、めざすべき道は

同様に、国保においても昨年の改正で、都道府県単位の財政運営に向けて、保険財政共同安定化事業が拡大され、対象が1円にまで引き下げられた。さらに将来的には、民主党政権下での高齢者医療制度改革会議の報告書に見られるように、国保の都道府県保険者論もある。これでは、医療と介護が互いに背を向け合う関係になってしまう。

医療と介護の連携強化という観点からすれば、それぞれの給付と負担を一体的に捉え、地域包括ケアの実現に向けての市町村レベルでの取り組みがきちんと評価され、当該市町村の保険料や財政負担の軽減という形で反映される仕組みをめざすべきではないか。少なくとも医療のプライマリーケアと介護についてはそうあるべきだ。

記事提供 社会保険出版社



講演・実践報告から慢性腎臓病（CKD）を学ぶ医療費分析研修会

本会では2月26日、高知市の高知城ホールにおいて「医療費分析研修会」を開催し、市町村の国保および保健衛生担当者など51人が参加した。

はじめに、高知高須病院長の湯浅健司氏より「慢性腎臓病（CKD）と病診連携、そして特定健診」と題して、事前アンケートで寄せられた質問に回答するかたちで講演があった。



実践報告では、24年度CKD予防対策モデル事業のモデル保険者である土佐清水市と須崎市より、透析患者とCKD対象者への訪問の成果と課題について報告がされた。また、昨年度のモデル保険者である土佐市からは、モデル事業終了後のCKD対策の取組みについて紹介があった。参加者からは「じっくり既往歴と生活を聞き取ることは重要」「食事の適量についてコツコツ伝えていくことが大切と改めて感じた」「今後のCKD対策の参考になった」等の感想があった。

連合会の動き

RENGOUKAI NO UGOKI

特定健康診査・特定保健指導

受診率の向上と県民の健康増進に向けて

本会では、平成25年度に向けて高知県および高知県医師会と連携を図りながら、各種説明会を開催。特定健康診査の円滑な実施および受診率のさらなる向上をめざし、精力的に取り組んできた。

▼平成25年度特定健康診査等の実施に関する説明会



本会では1月24日、高知市の高知城ホールにおいて「平成25年度の特定健康診査等の実施に関する説明会」を開催し、県内保険者の特定健康診査等担当者ら55人が出席した。

はじめに、本会より25年度の特定健康診査等の集合契約の概要と手続き、および受診券の変更点や受診券発行に向けたヒアリングの開催等について説明した。

その後、高知県健康政策部国保指導課から国保の保健事業に対する助成について、健康長寿政策課から特定健康診査マニュアルの改訂について、そして健康対策課からCKD対策の一環として実施する紹介状作成システムの概要について説明があり、最後に全体の質疑を受けて説明会を終了した。

▼高知県医師会特定健康診査説明会

3月7日から15日までの間、県内4会場で5回にわたって開催された高知県医師会主催の「特定健康診査説明会」に、本会から担当者1人が参加した。

今回の説明会は、25年度の特定健康診査の集合契約に参加する機関を対象に開催しており、実際の特定健康診査の事務処理等について、具体的な説明がされた。

本会からは契約代表保険者に代わり、特定健康診査等実施要領の内容に従い、契約単価の仕組みや健診実施機関における実際の事務、また、かかりつけ医による受診勧奨の取り組み等を重点的に説明した。

続いて、高知県健康政策部健康長寿政策課からは、改訂版の特定健康診査マニュアルについて、ヘモグロビンA1c測定値の国際標準化などの変更点を中心にした説明があり、あわせて、受診率の向上と県民の健康増進に向けた特定健康診査の実施に対する引き続きの協力をお願いがあった。

今後は、特定健康診査等の受診に向けて、関係機関が連携しながら円滑な事務処理を進めていくこととなる。



高知県保険者協議会

平成25年度事業計画・予算を協議第16回高知県保険者協議会



1月31日、高知市の高知会館において「第16回高知県保険者協議会」を開催し、協議会委員12人が出席した。

はじめに、特定健診・特定保健指導の25年度の集合契約や保険者協議会の運営等に関する国庫補助等について報告、つづいて、25年度事業・予算について協議した。協

議の結果、研修事業として昨年度に引き続き国立保健医療科学院主催の生活習慣病対策研修に参加し、研修事業企画・運営者の育成を継続すること、25年度の集合契約は全国健康保険協会高知支部並びに安芸市を引き続き代表保険者とすることが了承された。

また、高知県栄養士会、高知県健康政策部国保指導課および健康長寿政策課から健康づくり事業に関する報告がなされ、出席者の間で情報共有が図られた。

生活習慣病対策の方途を探る第13回調査研究部会・第12回保健活動部会合同専門部会

2月27日、国保連合会会議室において「第13回調査研究部会・第12回保健活動部会合同専門部会」を開催し、両部会の委員22人が出席した。

研修事業について各保険者間で情報交換があり、その中で、保険者協議会における研修事業としては東京都保険者協議会等先進的事例の情報提供や医療費分析の研修実施等の要望があった。

それらの意見を踏まえ、25年度研修事業として国立保健医療科学院主催の生活習慣病対策研修に参加することとなり、受講者の選定について協議した。

また、高知県健康長寿政策課から喫煙と高血圧を重視した生活習慣病対策等、高知県における25年度事業、標準的な健診・保健指導プログラムの改訂等について情報提供があった。



国保連合会に新しい仲間が増えました。よろしく願いいたします。

本会では、平成25年4月1日付けで職員2人、求償専門員1人を採用しました。



さわだ まゆ
澤田 麻由

担当課・係／介護保険課介護保険係
年齢／24歳 **血液型**／A型
趣味／音楽・料理・植物が好きです。最近
は外国に興味があります。
私の健康法／季節を問わずがいをすることです。

座右の銘／素直
抱負／至らない点もありますが、何事にも前向きな姿勢を心掛けたいと思います。たくさんのことを吸収し、日々成長していきたいです。皆様、よろしく願いいたします。



えりぐち けい
江里口 恵

担当課・係／審査課第1係
年齢／23歳 **血液型**／A型
趣味／バドミントン・読書・散歩
私の健康法／週に2回はバドミントンをするなど、定期的に運動をしています。

座右の銘／我がなす事は我のみぞ知る
抱負／分からないことばかりでご迷惑をかけますが、失敗を恐れず、常に成長していく意識を忘れずに仕事に取り組みます。これからよろしく願いいたします。



よしだ かんすけ
吉田 寛助

担当課・係／事業課求償係
年齢／64歳 **血液型**／O型
趣味／ゴルフ
私の健康法／食事は野菜や発酵食品を多く取るようにしています。できるだけ歩くようにしています。

座右の銘／千里の行も一歩より始まる(老子)
抱負／チームワークを大切にし、前職の経験を生かし、使命感と誇りを持って、求償業務を遂行するため全力を尽くして参ります。皆様、どうぞよろしく願いいたします。

国保事業の健全な発展に努めていく



高知県国民健康保険団体連合会
常務理事 大野 政彦

103兆4870億円となり、初めて100兆円の大台を超え今後も高齢化が進むことに伴い、大幅に増えることが見込まれています。

陽春の候、皆様方におかれましては国民健康保険事業の健全な運営にご尽力いただいていることに敬意を表しますとともに、本会の事業運営につきまして日頃から格別のご理解とご協力を賜り心からお礼申し上げます。

こうした厳しい状況の中、昨年暮れに続可能な社会保障制度実現のための検討が始まり、本年8月までに一定の結論を得ることになっています。国保関係者におきましては、国保制度の安定化に実効ある結論が期待されているところであり

このたび、井上常務理事の退任に伴う役員の選任にあたり4月1日付けをもちまして高知県国民健康保険団体連合会常務理事に就任いたしました。もとより微力ではございますが、誠心誠意全力を尽くして皆様方とともに国保事業の健全な発展のために努力してまいりますのでご指導のほどよろしくお願いいたします。

さて、国立社会保障・人口問題研究所が昨年11月に公表した「22年度社会保障費用統計」によると、医療や介護、年金などに支出した社会保障給付費が

本会といたしましては、医療費の適正化に向け更なる審査精度の向上とともに、本会が保有する「健診」「医療」「介護」等の各種データを利活用できるシステムを本年10月から導入し、生活習慣病予防対策の充実により、国保や介護保険の安定的運営に全力で取り組んで参る所存でございます。

保険者の皆様をはじめ、関係諸機関の方々のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、就任のあいさつといたします。

より信頼される連合会をめざす



高知県国民健康保険団体連合会
事務局長 大藤 幸一

皆様方におかれましては、平素から本会の事業運営に格別のご高配を賜り、厚くお礼を申し上げます。

このたび、4月1日付けをもちまして高知県国民健康保険団体連合会事務局長を拝命いたしました。

もとより微力ではございますが、国民健康保険及び介護保険事業等の健全な運営と発展のため、誠心努力いたす所存でございますので、何卒格別のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、国においては、社会保障の充実・安定化と財政健全化を目指した社会保障と税の一体改革関連法が成立し、社会保障制度改革推進法に基づき「社会保障制度改革推進法」にて、医療・介護・年金・少子化対策の4分野を中心に議論されております。

また、保険者に大きく関係します国保制度については、市町村国保の安定的な運営を確保するため、財政基盤強化策の恒久化や財政運営の都道府県単位化を推進するなど、一定の前進が図られたところでございます。

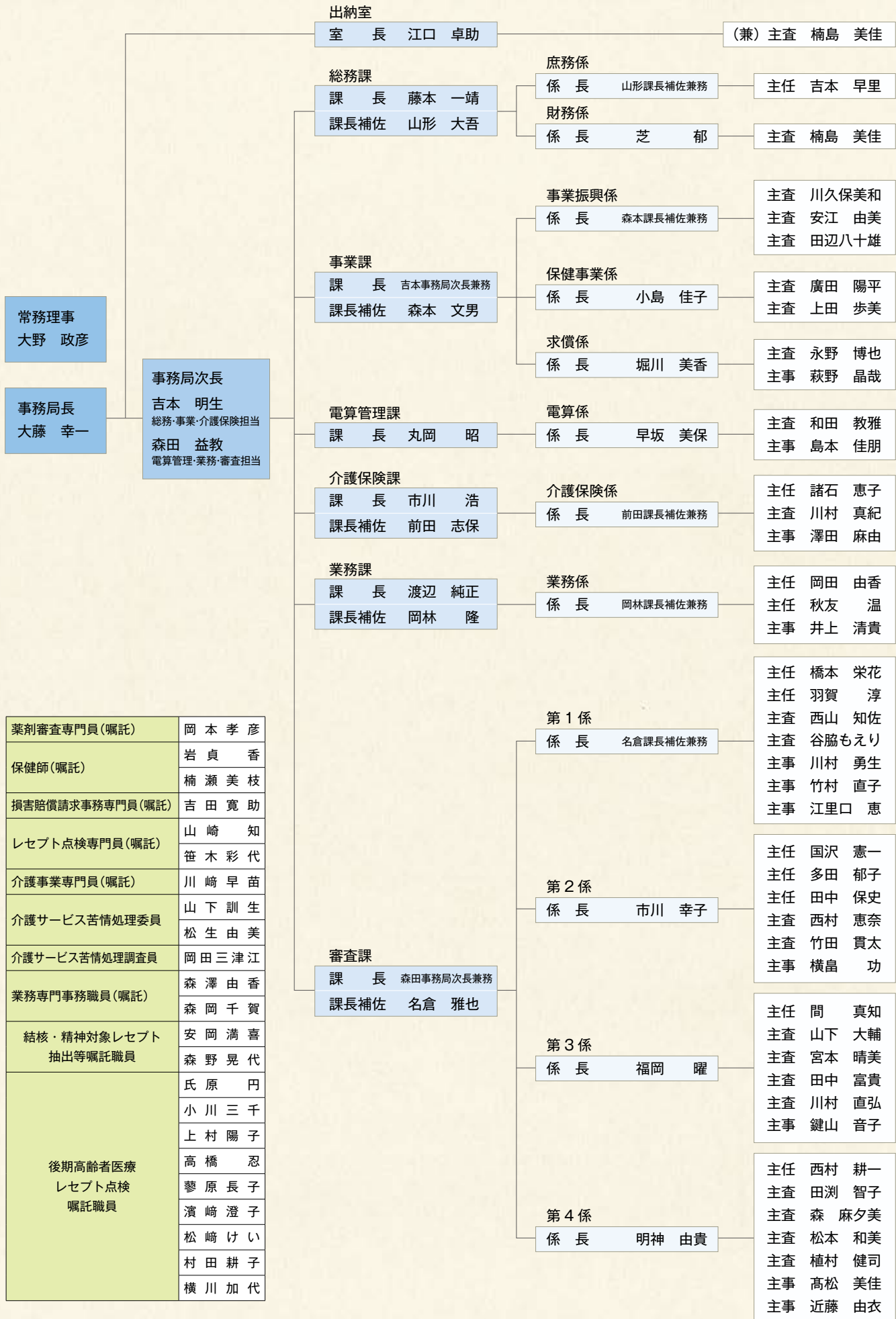
一方、本会を取り巻く状況については、衆議院決算行政監視委員会において、審査支払機関の統合問題における厚生労働省の対応を不十分とし、「競争原理が働かない障壁を取り除く努力を真剣に行うこと」とした決議を受け、政府は「審査事務の質の向上とコスト削減、医療費請求の適正化について一層努力していく」と示されたところでございます。

本会といたしましては、こうした決議などの対応として、審査支払事業の質の向上やコスト削減に取り組むとともに、依然として厳しい財政運営を強いられている保険者の現状を認識し、保険者サービスに努めるなど、より信頼していただける団体をめざしてまいります。

最後になりましたが、今後とも皆様方のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、就任のあいさつといたします。

平成25年度 国保連合会事務局組織図

(平成25年4月1日現在)



室・課	係	主な事務
出 納 室	— TEL 088-820-8419	●現金および有価証券等の出納事務
総 務 課	庶 務 係 TEL 088-820-8401	●会務の総合調整 ●総会、理事会および監事会に関すること ●認可、届出、契約および登記 ●規約、規則、細則および規程に関すること ●人事および給与に関すること ●会員に関すること ●表彰に関すること ●国保制度の改善強化対策 ●その他、他の室・課（係）に属さないこと
	財 務 係 TEL 088-820-8401	●財政計画および予算の編成執行 ●負担金および手数料その他徴収金の賦課徴収 ●物品の調達、貸借、検収および不要品の売却 ●連合会補助金および貸付金の申請および請求 ●保険者に対する融資
事 業 課	事業振興係 TEL 088-820-8415	●事業の企画 ●高知県国民健康保険事務担当職員協議会事務局 ●高知県国保地域医療推進協議会事務局 ●全国国民健康保険診療施設協議会に関すること ●地域医療推進共同事業 ●国保財政診断事業 ●保険料（税）適正算定マニュアルに関すること ●保険財政共同安定化事業・高額医療費共同事業 ●用紙等の共同印刷、書籍等の購入斡旋 ●健康測定機器、健康教育教材の貸し出し ●機関誌「TOSA 国保だより」の編集、発行 ●国保新聞に関すること ●調査、情報の収集および分析・提供、保存 ●ホームページに関すること ●国保データベースシステム（KDB）に関すること
	保健事業係 TEL 088-820-8420	●保健事業に関すること ●市町村保健師研修会等に関すること ●市町村保健衛生職員協議会保健師部会に関すること ●高知県在宅保健活動者なでしこの会事務局 ●国保ヘルスアップに関すること ●高知県保険者協議会事務局 ●特定健康診査・特定保健指導に関すること ●健康体操に関すること ●国保データベースシステム（KDB）に関すること
	求 償 係 TEL 088-820-8421	●第三者行為求償事務

室・課	係	主な事務
電算管理課	電 算 係 TEL 088-820-8403	●被保険者資格の電子記録 ●被保険者の資格および給付ならびに支払いに係る電子記録のプログラムの開発、修正および管理 ●被保険者の資格および給付に係る事務の共同処理外電子記録 ●情報ネットワークシステムの開発推進および関連機器の維持管理 ●保険者事務共同電算処理に対応するシステムに関すること ●後期高齢者医療広域連合の電算業務支援
介護保険課	介護保険係 TEL 088-820-8409 (苦情) TEL 088-820-8410 TEL 088-820-8411	●介護給付費の審査および支払い、過誤調整、再審査、全国決済 ●介護サービス事業者等に対する調査、助言および指導 ●介護保険者事務の共同処理 ●介護給付費審査委員会に関すること ●介護サービス苦情処理委員会に関すること ●高額医療介護（介護予防）サービス費の支給計算 ●障害介護給付費の支払いおよび過誤調整、全国決済 ●障害者総合支援市町村事務の共同処理 ●保険料（税）の年金からの特別徴収における経由機関業務
業 務 課	業 務 係 TEL 088-820-8407	●保険者の過誤調整に関すること ●訪問看護等療養費に関すること ●柔道整復師の施術に関すること ●支払事務 ●公費負担医療に関すること ●福祉医療等に関すること ●出産育児一時金等の医療機関等への支払等に係る業務
審 査 課	第 1 係 TEL 088-820-8404	●高点レセプトおよび歯科レセプトの審査・支払事務 ●審査専門部会・歯科部会運営 【支払いに関する担当保険者】室戸市、安芸市、南国市、土佐市、香南市、香美市、安芸郡・土佐郡・長岡郡内の保険者
	第 2 係 TEL 088-820-8405	●医科レセプトの審査・支払事務 ●診療報酬審査委員会に関すること 【支払いに関する担当保険者】高知市、医師国保組合
	第 3 係 TEL 088-820-8406	●医科レセプトの審査・支払事務 ●県外分診療報酬全国決済に関すること 【支払いに関する担当保険者】須崎市、土佐清水市、宿毛市、四万十市、吾川郡・高岡郡・幡多郡内の保険者
	第 4 係 TEL 088-820-8402	●医科および調剤レセプトの審査・支払事務 ●保険者および保険医療機関等の再審査事務 ●再審査部会運営 ●レセプト点検共同事業に関すること

平成 25 年度 国保連合会各室課事業年間予定表

室・課	出納室・総務課	審査課・業務課	電算管理課	介護保険課
4月	○保険者負担金賦課徴収 ○役職理事会（必要に応じて）		○国保基準給付費基礎調査票作成	
5月				○介護保険初任者研修会
6月				
7月	○監事会・理事会・通常総会			
8月			○給付関係の年間分帳票作成	
9月				○保険料の年金からの特別徴収業務手数料賦課徴収（前期分）
10月	○国保保健賞表彰		○9月末現在年齢階層別被保険者数調作成	
11月	○国保制度改善強化全国大会（東京都）		○電算共同処理運営委員会	
12月	○理事会 ○役職理事会（必要に応じて）	○レセプト点検調査事務研修会		
1月				
2月	○国保功労者表彰 ○監事会・理事会・通常総会 ○退職者医療共同事業負担金調定		○電算共同処理運営委員会	○保険料の年金からの特別徴収業務手数料賦課徴収（後期分）
3月			○被保険者証作成（国保・退職）	

事業課	国保事務担当職員協議会	国保地域医療推進協議会
○下半期共同幹旋物等代金請求（10月～3月分） ○3月分求償事務手数料請求 ○地域医療推進負担金賦課徴収 ○求償権確認調査および求償金滞納処理（毎月） ○国保新聞に関する業務（毎月） ○TOSA 国保だより 314 号発行 ※高額医療費共同事業・保険財政共同安定化事業については、交付申請締切り・拠出金納付が毎月 20 日、交付金交付が毎月 23 日です。 ※求償金は収納月の翌月 10 日頃に該当保険者へ通知および送金します。	○各支部総会（支部単位で開催）	
○高知県都市国保主管課長・係長研究協議会（南国市） ○四国地区都市国保主管課長および国保保険者国保事務担当者研修協議会（徳島県） ○特定健診等国庫負担（補助）金の実績報告に関する説明会・特定健診等事務担当職員新任者研修会 ○健康づくり推進月間の図画・ポスター募集 ○都道府県および市町村国保主管課職員研修[1 班][2 班]（東京都） ○国保事務担当職員新任者研修会	○監事会・理事会・総会	○監事会・理事会・総会
○全国国民健康保険診療施設協議会会費賦課徴収 ○高知県在宅保健活動者なでこの会総会・研修会 ○四国ブロック在宅保健師等研修会	○国保事業経営等研究専門部会	
○保険者協議会 ○広報委員会 ○特定健診・特定保健指導手数料請求 ○TOSA 国保だより 315 号発行 ○ヘルスアップ推進員研修会	○支部長会	○地域医療現地研究会（北海道） ○国保診療施設四国ブロック会・四国合同国保歯科診療施設研修会（愛媛県） ○部会長・副部会長会
○第 30 回「健康なまちづくり」シンポジウム（東京都） ○全国市町村国保主管課長研究協議会（東京都） ○保険者協議会専門部会 ○高知県在宅保健活動者なでこの会「なでこだより」第 26 号発行	○各支部研修会（支部単位で開催）	○医師部会・技術者部会・看護部会合同研修会（四万十市）
○長期健康世帯・被保険者表彰申請 ○第三者行為求償事務研修会（支部単位で開催）		
○上半期共同幹旋物等代金請求（4月～9月分） ○上半期求償事務手数料請求 ○図画・ポスター入選作品表彰式・展示 ○保険者協議会専門部会 ○TOSA 国保だより 316 号発行		○第 53 回全国国保地域医療学会（島根県）
○国保被保険者健康づくり推進月間	○理事会	○部会長・副部会長会
○新年度使用の共同印刷物受注		
○広報委員会 ○TOSA 国保だより 317 号発行		
○被保険者証更新ポスター配布 ○医療費分析研修会	○国保事業経営等研究専門部会 ○支部長会	○第 27 回高知県国保地域医療学会
○下半期求償事務手数料請求 ○疾病分類等冊子発行 ○高知県在宅保健活動者なでこの会「なでこだより」第 27 号発行		○部会長・副部会長会

※日程調整 ○国保事務担当職員研修会 ○国保運営協議会委員研修会



●一面に咲き乱れた菜の花。黄金の絨毯を広げたかのような景色は壮観です。菜の花の花言葉の一つに「元気いっぱい」があります。新年度が始まり、期待や不安を胸に膨らませている人も多くいるかと思いますが、元気いっぱいにいろんなことにチャレンジしていきたいですね。

●4月から広報の担当になり、期待よりも不安が大きかった年度初め。そんなことも忘れてしまうほど本誌の編集・校正作業におわれながら、なんとか発行することができました。次号からは初めての取材や記事の作成などに取り組むことになり、まだまだ課題が多くありそうですが、新しい企画や自分のカラーを出すことにチャレンジし、さらに充実した誌面にしていければと思いますので、よろしくお願いいたします。(田)

314号の取材・寄稿にご協力くださいました皆さん ありがとうございました。



TOSA 国保だより

2013年4月発行 314号

■発行者
高知県国民健康保険団体連合会
高知市丸ノ内2丁目6-5 TEL 088-820-8415
<http://www.kochi-kokuhoren.or.jp>
E-mail koho@kochi-kokuhoren.or.jp

■印刷
株式会社リーブル 高知市神田2126-1
TEL 088-837-1250 <http://www.livre.jp>

次号予告

大自然あふれる天辺のむら

「大川村」

今回は大川村を訪ね、これからのまちづくりについて、和田知土村長にお話を伺います。

TOSA 国保だより 315号
7月下旬発行予定

連合会日誌

2013年1月1日～3月31日

1月

8日 平成24年度1月臨時総会開催(高知市)
15日 平成24年度保険者支援保健事業慢性腎臓病(CKD)予防対策支援(土佐市)
17日 互助会との平成24年度事務連絡協議会出席(高知市)
20日 「健康くらぶ」運用支援(四万十市)
23日 平成25年度保険者支援保健事業慢性腎臓病(CKD)予防対策支援(須崎市)
第36回国保連合会広報委員会開催(高知市)
24日 平成25年度特定健康診査等の実施に関する説明会開催(高知市)
25日～26日 地域包括医療・ケア研修会出席(東京都)
29日 介護保険・障害者自立支援一拠点集約化システム担当者説明会出席(東京都)
平成26年度保険者支援保健事業慢性腎臓病(CKD)予防対策支援(土佐清水市)
30日 高知県在宅保健活動者なでしこの会第53回役員会開催(高知市)
高知県在宅保健活動者なでしこの会第9回保健師活動伝承記録集編集委員会開催(高知市)
平成24年度介護給付適正化研修会出席(高知市)
31日 第3回国保データベース(KDB)システムステアリングコミッティ出席(東京都)
平成25年度予算説明会および全国国保連合会常勤役員・事務局長合同会議出席(東京都)
第16回高知県保険者協議会開催(高知市)
平成24年度全国国保連合会審査担当課(部)長会議出席(東京都)

2月

1日 平成24年度四国公衆衛生学会研究発表会出席(愛媛県)
7日 国保総合システム担当課長および担当者会議(第3回)出席(香川県)
第4回高知診療報酬適正化連絡協議会出席(高知市)
8日 TOSA国保だより第313号発行
13日 平成25年度特定健康診査等受診券の発行に関するヒアリング開催(香南市・土佐町)
高知県在宅保健活動者なでしこの会幡多地区情報交換会開催(黒潮町)
国保中央会システム委員会特定健診等データ管理システム部会出席(東京都)
14日 平成24年度3回理事会開催(高知市)
平成25年度特定健康診査等受診券の発行に関するヒアリング開催(佐川町)
県安芸福祉保健所平成24年度第3回安芸地区糖尿病勉強会出席(安芸市)
15日 平成25年度特定健康診査等受診券の発行に関するヒアリング開催(安芸市)
18日 国保データベース(KDB)システム担当者説明会出席(東京都)
19日 平成24年度第2回監事会開催(高知市)
高知県国民健康保険事務担当職員協議会第16回支部長会開催(高知市)
20日 国保中央会システム委員会幹事会および全国国保連合会常勤役員・事務局長合同会議出席(東京都)
21日 平成25年度特定健康診査等受診券の発行に関するヒアリング開催(須崎市)
高知県地域医療診療施設等勤務医師修学資金貸与事業幹事会開催(高知市)

3月

高知県在宅保健活動者なでしこの会会報「なでしこだより」第8回編集委員会開催(高知市)
22日 平成26年度特定健康診査等受診券の発行に関するヒアリング開催(四万十市)
全国国民健康保険診療施設協議会都道府県協議会連絡会議・協議会設置都道府県国保連合会事務局長合同会議出席(東京都)
全国国民健康保険診療施設協議会第2回理事会・通常総会出席(東京都)
高知県在宅保健活動者なでしこの会お達者づくり支援事業実施(黒潮町)
23日 第26回高知県国保地域医療学会開催(高知市)
25日 平成24年度全国国民健康保険運営協議会会長等連絡協議会出席(東京都)
26日 平成24年度医療費分析研修会開催(高知市)
27日 高知県保険者協議会第13回調査研究部会・第12回保健活動部会合同専門部会開催(高知市)
28日 平成24年度2月通常総会開催(高知市)
1日 高知県国民健康保険事務担当職員協議会第55回国保事業経営等研究専門部会開催(高知市)
2日 「健康くらぶ」運用支援(土佐清水市)
4日 第3回高知県健康づくり推進協議会出席(高知市)
障害者自立支援給付支払等システムに関する都道府県・国保連合会合同担当者説明会(第17回)出席(東京都)
5日 特定健診等データ管理システム担当者説明会出席(東京都)
6日 国保直営診療所等勤務医師訪問(馬路村)
7日 国保直営診療所等勤務医師訪問(いの町他)
高知県医師会特定健康診査説明会出席(高知市)
8日 高知県医師会特定健康診査説明会出席(南国市)
11日 第2回糖尿病栄養指導検討会出席(室戸市)
11日～12日 国保直営診療所等勤務医師訪問(大月町他)
12日 高知県医師会特定健康診査説明会出席(高知市)
13日 国保直営診療所等勤務医師訪問(本山町他)
四国地方協議会保健事業担当課長および担当者会議出席(愛媛県)
14日 高知県医師会特定健康診査説明会出席(四万十市)
15日 高知県医師会特定健康診査説明会出席(安芸市)
四国地区国保連合会事務局長会議出席(香川県)
16日 慢性腎臓病(CKD)シンポジウム出席(東京都)
18日 高知県在宅保健活動者なでしこの会乳がん自己触診法普及事業実施(黒潮町)
特定保健指導説明会出席(高知市)
平成24年度第2回高知県慢性腎臓病(CKD)対策連絡協議会出席(高知市)
19日 国保直営診療所等勤務医師訪問(梶原町他)
22日 国保直営診療所等勤務医師訪問(四万十町他)
高知県国保地域医療推進協議会第48回部会長・副部会長会議開催(高知市)
28日 第60回保険者等事務電子計算共同処理運営委員会開催(高知市)
第9回基金・国保審査差異解消のための打合せ会出席(高知市)